

第1章 瀬長島の現状

瀬長島の現状と課題について、「現況」、「上位関連計画」及び「利用者の意向」の観点で整理を行います。

1-1 瀬長島の現況

1 土地の概要・開発の経緯

(1) 土地の概要

瀬長島は、豊見城市西岸から沖合約600mに浮かぶ周囲約1.5km、最標高約30m、面積約18ha、沖縄本島と海中道路でつながる島です。本島の入口である那覇空港と隣接しており、豊崎から瀬長島までの豊見城西海岸地域は本島の観光・商業エリアとして様々な開発が進んでいます。

図 瀬長島の位置



(2) 開発の経緯・計画

瀬長島は、昭和52年の返還後、野球場や公園等の整備を進めてきました。平成24年度からは瀬長島観光拠点整備事業としてサンセット広場、展望台、駐車場、便益施設等の整備を行い、また、民間事業者により温泉を活用した宿泊施設（瀬長島ホテル、平成25年2月開業）、商業施設（ウミカジテラス、平成27年8月開業）が開業し、今後も温泉を活用した宿泊施設等の開発が計画されています。なお、令和2年2月には隣接する那覇空港第二滑走路が供用開始されると共に本島側では那覇空港自動車道の延伸工事が進捗しています。

表 瀬長島における開発の経緯の概要

昭和52年度	5月に瀬長島返還 瀬長島跡地利用計画調査報告書の策定
昭和57年度	瀬長島開発基本計画の策定
平成4年度	豊見城市立瀬長島野球場整備
平成6年度	瀬長島開発計画調査報告書の策定
平成7年度	海中道路（村道6号線）の整備（平成18年完成）
平成8年度	広場前駐車場整備（60台）
平成9年度	瀬長島海浜公園基本計画の策定
平成10年度	瀬長島サンセットパーク整備（駐車場111台、ポケットパーク750㎡）
平成13年度	豊見城村観光振興プログラム調査報告書の策定
平成16年度	沖縄振興特別措置法に基づく観光振興地域「エアウェイ・リゾート豊見城」に指定
平成17年度	空の駅瀬長島物産センター整備 ジオ沖縄(株)より瀬長島温泉開発事業の提案
平成20年度	温泉試掘
平成21年度	瀬長島国有地1/3取得
平成24年度	瀬長島国有地2/3取得
平成25年2月	瀬長島ホテル開業
平成27年8月	ウミカジテラス（商業施設）開業
（令和2年2月）	（那覇空港第2滑走路供用開始）
令和6年4月	STORYLINE 瀬長島（ホテル）開業
令和6年11月	瀬長島観光拠点機能強化計画書の策定
令和8年ごろ	那覇空港自動車道（那覇空港IC～豊見城・名嘉地IC）開通※1
令和9年12月	瀬長島ホテル ANNEX 及びウミカジテラス増床分の開業予定※2

※1：防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム（令和3年4月、沖縄総合事務局）より

【今後5か年程度での全線開通を目指す（関係機関協議等が順調に進んだ場合）と記載】

※2：2024年8月9日新聞報道より

表 今後の開発・整備計画

＜那覇空港自動車道（那覇空港 IC～豊見城・名嘉地 IC）開通＞

那覇空港自動車道（一般国道 506 号）小禄道路
事業区間：那覇市鏡水～豊見城市名嘉地
延長：5.7km



出典：南部国道事務所 HP

＜瀬長島ホテル別館完成・ウミカジテラス増床＞

- ・地上 9 階建てのアネックス棟を建設（127 室）
- ・開発面積 61,700 m²
- ・三つのプールを備える



※現時点でリゾート琉球(株)が検討している内容であり、
今後の検討・許可により変更となる可能性がある

資料：リゾート琉球(株)提供

2 歴史・文化、自然環境

(1) 歴史・文化

太古の時代、琉球の国を創ったアマミキヨの子「南海大神^{なんかいうふがみ}加那志^{かなし}」が最初にこの島に住み、そこから豊見城の世立てが始まったという豊見城発祥伝説が残る島です。

島内にはかつて瀬長グスクがあり、瀬長^{あじ}按司が居住したグスクと伝えられています。これまでに中国製青磁、陶器及びグスク系土器等が出土しています。地元では古くから島を別名「アンジナ」と呼んでおり、^{あじ}按司のいる砂島がアジシナシマへ転訛し、それがアンジナとなったとも伝えられています。

1719年に来琉した中国の冊封副使「徐葆光^{さっぽうふくし}」は、瀬長島を訪れた際の様子について、「遊山南記」の中で、美しい砂浜の静けさと大勢の人が雨宿り出来るほどの巨石奇岩の様子等、その変化に富んだ景観を讃えています（「琉球国使略」）。また、昭和11年には沖縄八景の一つに数えられる等豊見城を代表する風光明媚な景勝地でした。戦前までは約30戸が北側平野部（現野球場一帯）に集落を構え、半農半漁の暮らしを営む有人島でした。

昭和19年、沖縄戦に伴い住民らに島外退去が命ぜられ、戦後も引き続き島全体が米軍基地として接收されることとなったため、島民は対岸で集落を構えることとなりました。このときの基地建設工事で島は大きく削り取られ、また、島と本島及び空港とをつなぐ2本の海中道路が取付けられる等景観は激しく変貌しました。島は、長らく米海軍弾薬貯蔵基地として使用され、昭和52年に返還されました。

戦前まで島内には、瀬長グスクの遺構をはじめ、子宝祈願とともに誕生する新生児の性別を占った「子宝岩（イシイリー）」、さらに『琉球国由来記』にも記述のある瀬長ノ嶽等多くの遺跡や拝所、井泉等が残り、信仰の対象として各地から参拝者が訪れていましたが、戦後の基地建設と同時に破壊され、往時の面影はほとんど残されていない状況です。

また、瀬長島は文学のテーマとしても取り上げられ、組踊「手水の縁」の舞台にもなっています。

図 子宝岩（再現）の様子



図 戦前（1945 年）の瀬長島の空撮写真



出典：沖縄県公文書館

図 昭和 18 年頃の復元写真・瀬長集落の位置の変遷



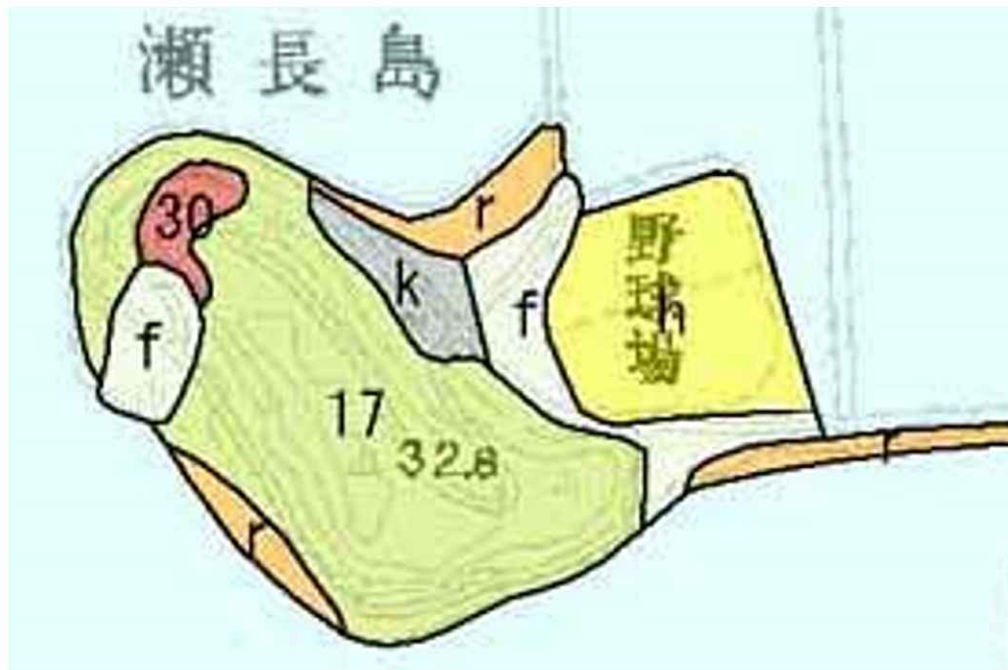
出典：瀬長史（令和 5 年 3 月、字瀬長史編集委員会）

(2) 自然環境

瀬長島は市内で唯一自然海岸を有する周囲 1,527m、面積 182,272 m²の小島です。島の最高標高は 32.8m で、中心の丘陵台地から西側は海岸段丘、東側は海岸低地となっており、西側は季節風（北風）等の影響を受けやすくなっています。大嶺海岸から連続するイノーや砂浜を含め美しい海景を有するほか、斜面緑地等豊かな自然環境を有しています。

図 陸生環境（植生図）

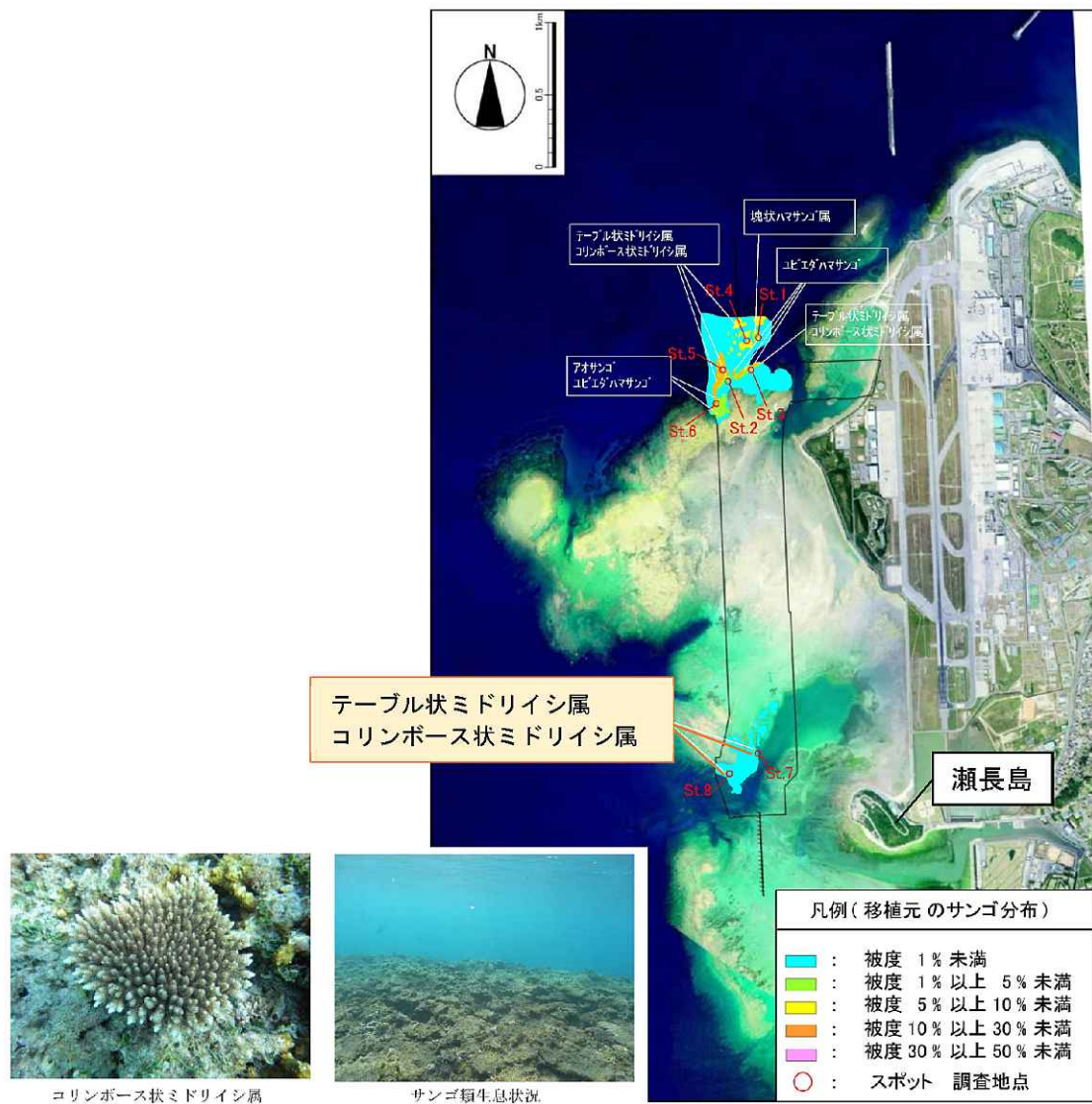
※平成 13 年の調査であるため、現在と異なることに留意が必要



- | | |
|---|---|
| 17 ハドノキーウラジロエノキ群団（二次林） | k 市街地 |
| 30 モクマオウ類植林 | r 自然裸地 |
| h ゴルフ場・芝地 | |
| f 路傍・空地雑草群落 | |

出典：自然環境保全基礎調査 植生調査（調査年次 2001 年）
（環境省生物多様性センター）

図 海浜環境（サンゴ類分布状況）

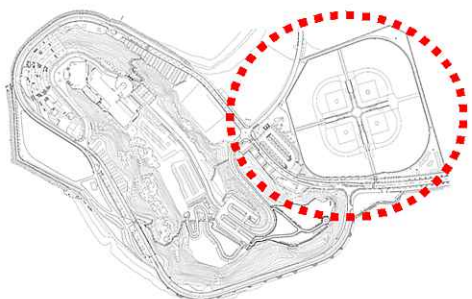


出典：那覇空港滑走路増設事業に係る報告書 令和3年6月
（内閣府沖縄総合事務局 国土交通省大阪航空局）

(3) 現在の街並み

① 海中道路～瀬長島野球場

瀬長島には、海中道路のみでのアクセスとなっています。海中道路を通った先に、瀬長島野球場とその駐車場が広がっています。



海中道路
一般的なアスファルト舗装。電線も存在。



海中道路（島入口部）
歓迎の看板（左）と島の森林が目に入る



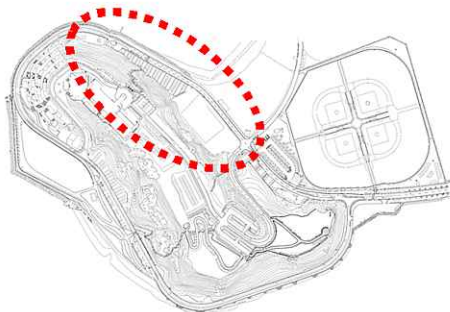
瀬長島野球場
4面を有する野球場



カニのオブジェ

② 北(瀬長)ビーチ～ウミカジテラスへの車道

北(瀬長)ビーチ※には民間企業による商業施設が立地し、道向かいにはホテル(STORYLINE 瀬長島)が立地しています。また、ウミカジテラスへは一般的な車道が続きます。



セナガマリブ

キャンピングカーを活用した宿泊施設や商業施設



STORYLINE 瀬長島

天然温泉を有する宿泊施設(101室)



島内の一周道路(ウミカジテラス向き)

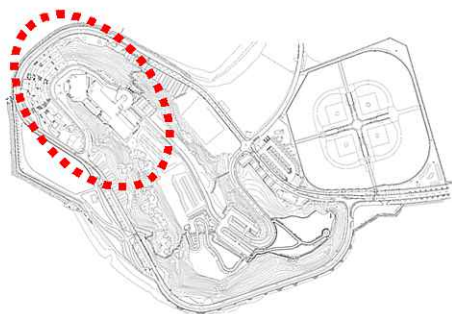
一般的なアスファルト舗装。途中からは路上駐車が続く。また、一方通行となる。



※北(瀬長)ビーチは沖縄県水難事故の防止及び遊泳者等の安全の確保等に関する条例に規定する海水浴場ではありません。

③ 瀬長島ホテル・ウミカジテラス

瀬長島ホテルとウミカジテラスは現在の主要な観光拠点となっています。



瀬長島ホテルとウミカジテラス
温泉を有するホテル（100室）と小規模な店舗（48店舗）からなる商業施設

出典：瀬長島ホテル HP



瀬長島ホテル（増床計画）
ホテル（127室）とウミカジテラスの増床を計画

資料：リゾート琉球（株）提供



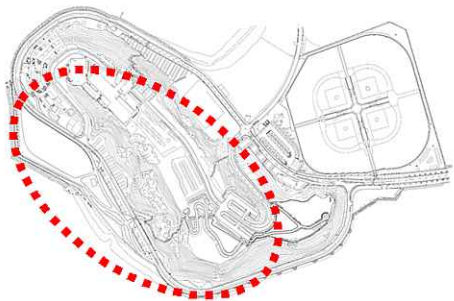
ウミカジテラス

西海岸をイメージした建物が印象的な施設。前面道路は一般的なアスファルト舗装で、路上駐車が認められている。



④ サンセット広場・展望広場

ウミカジテラスの前には、サンセット広場として芝生敷の広場空間が広がっています。
また、小高い丘の上には、展望広場として展望台等が設置されています。



サンセット広場
ウミカジテラス前の広場空間



島内の一周道路
レトロ角柱が設置されている。一般的なアス
ファルト舗装



展望広場

落ち着いた広場空間。顕彰碑や歌碑も設置されている。展望台からは那覇市街や那覇空港方面の眺望、発着する飛行機を臨むことができる。



3 土地利用

(1) 土地利用状況

① 土地利用の状況

瀬長島の土地利用の状況は下図のとおりです。瀬長島に占める面積の割合では、緑地が最も多く、次いで、野球場、道路が多くなっています。

図 瀬長島の土地利用

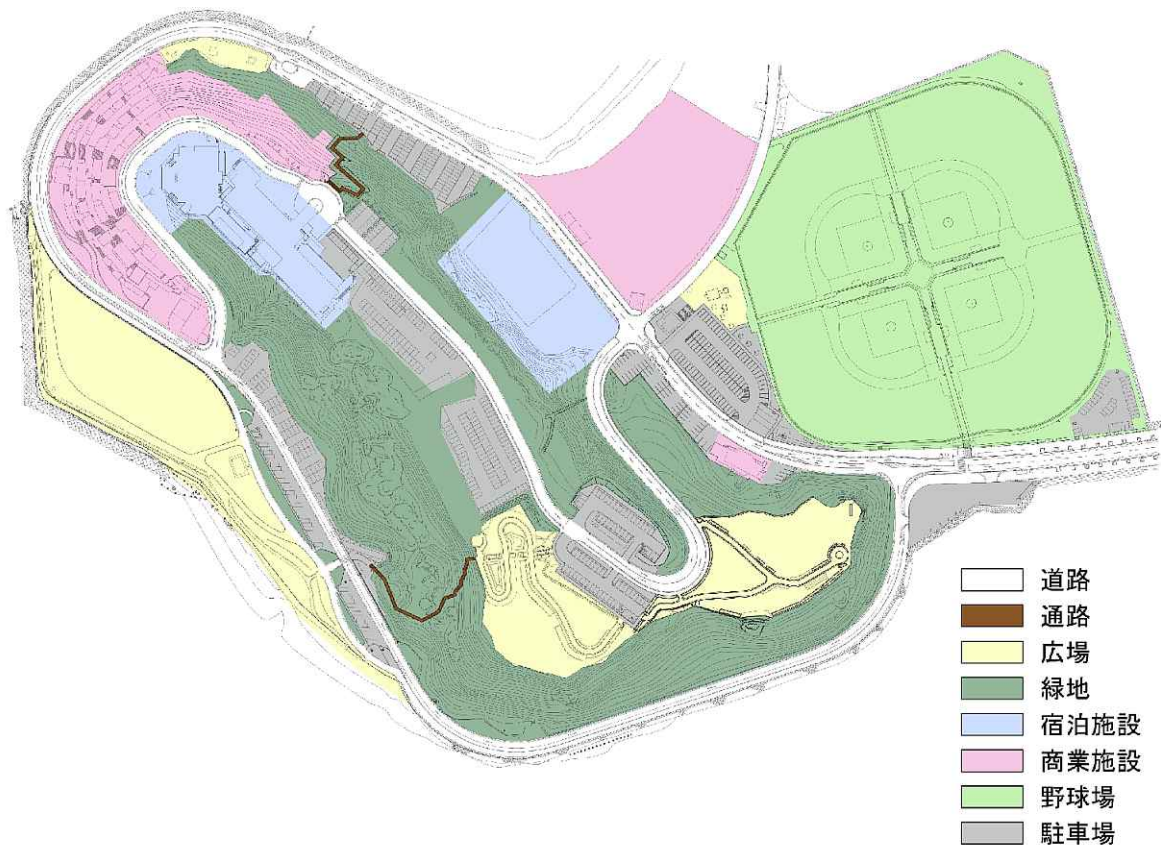


表 土地利用別の面積割合

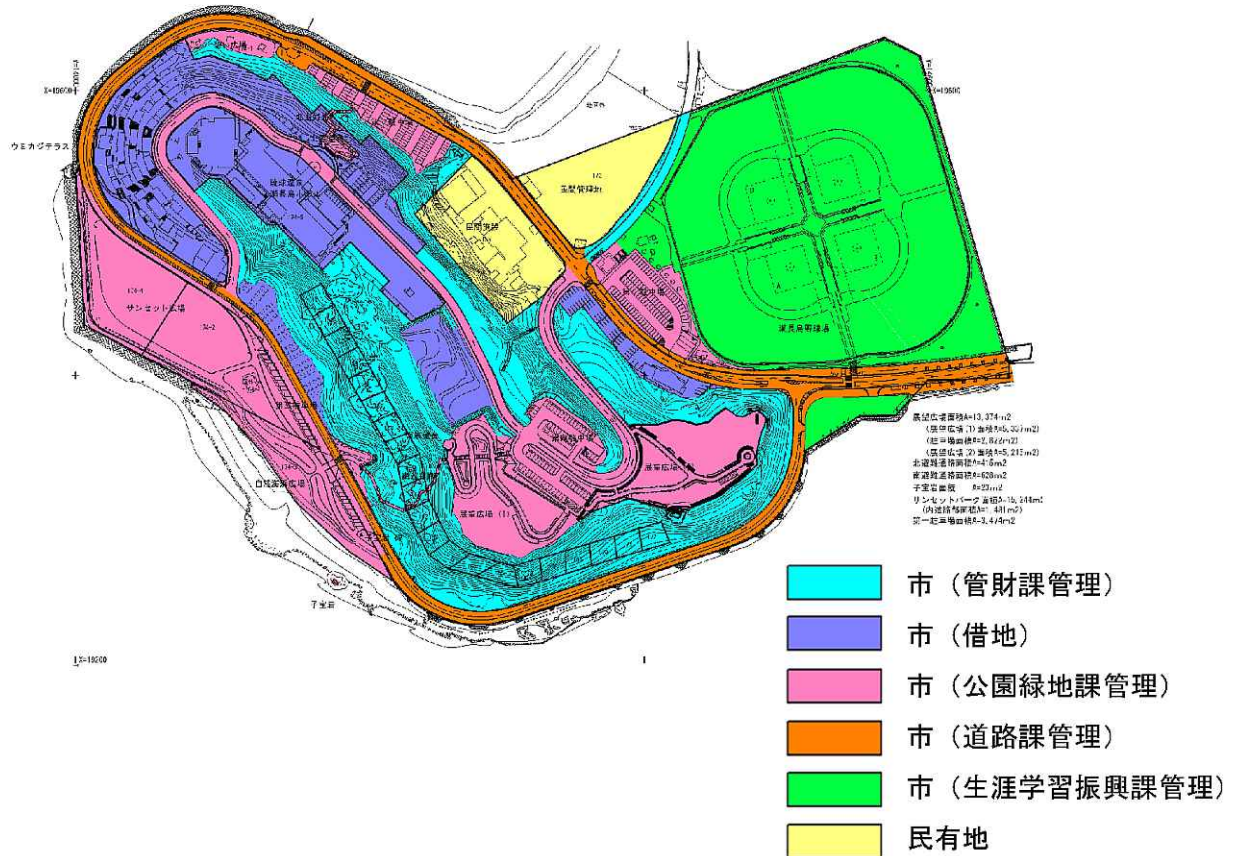
土地利用	面積	面積割合
緑地	4.3 ha	23.1 %
野球場	4.0 ha	21.3 %
道路	2.8 ha	15.0 %
広場	2.3 ha	12.6 %
駐車場	2.0 ha	10.9 %
商業施設	1.9 ha	10.2 %
宿泊施設	1.2 ha	6.7 %
通路	0.0 ha	0.2 %
合計	18.4 ha	100.0 %

※図上求積による算出

② 土地所有者

瀬長島は、下図のとおり、そのほとんどを本市が所有し、一部が瀬長区及び民間所有地となっています。また、本市所有地のうち、瀬長島ホテル及びウミカジテラス用地は借地となっています。

図 瀬長島の土地所有者の状況

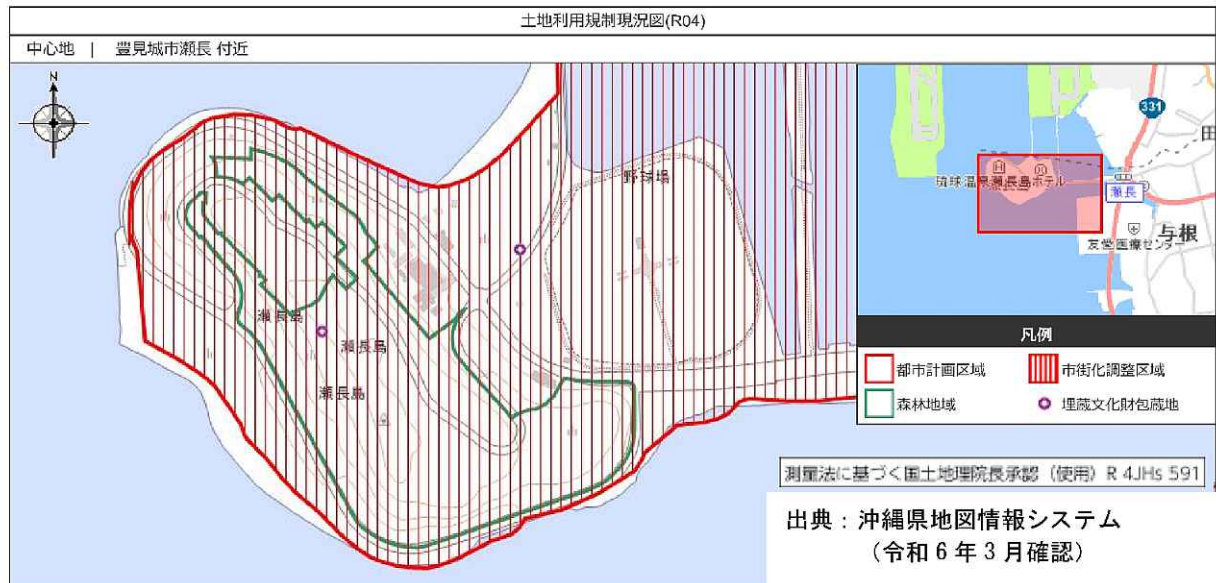


(2) 土地利用上の規制

① 土地利用規制

瀬長島は、島全域が市街化調整区域に指定されています。また、一部森林地域が指定されています。

図 土地利用規制図（瀬長島周辺）



■参考：市街化調整区域

都市の無秩序な市街化を防止し、計画的なまちづくりを進めるために市街化を抑制すべき区域として指定されるもの。一部の例外を除き、新たな建築物の建築は不可

（例外的に建築できるもの一例）

<許可を要しないもの>

- ・農家住宅、農業用倉庫及び農業用温室等（都市計画法 29 条第 1 項第 2 項）
- ・駅舎、図書館、公民館、変電所及び都市公園等（同法 29 条第 1 項第 3 項）

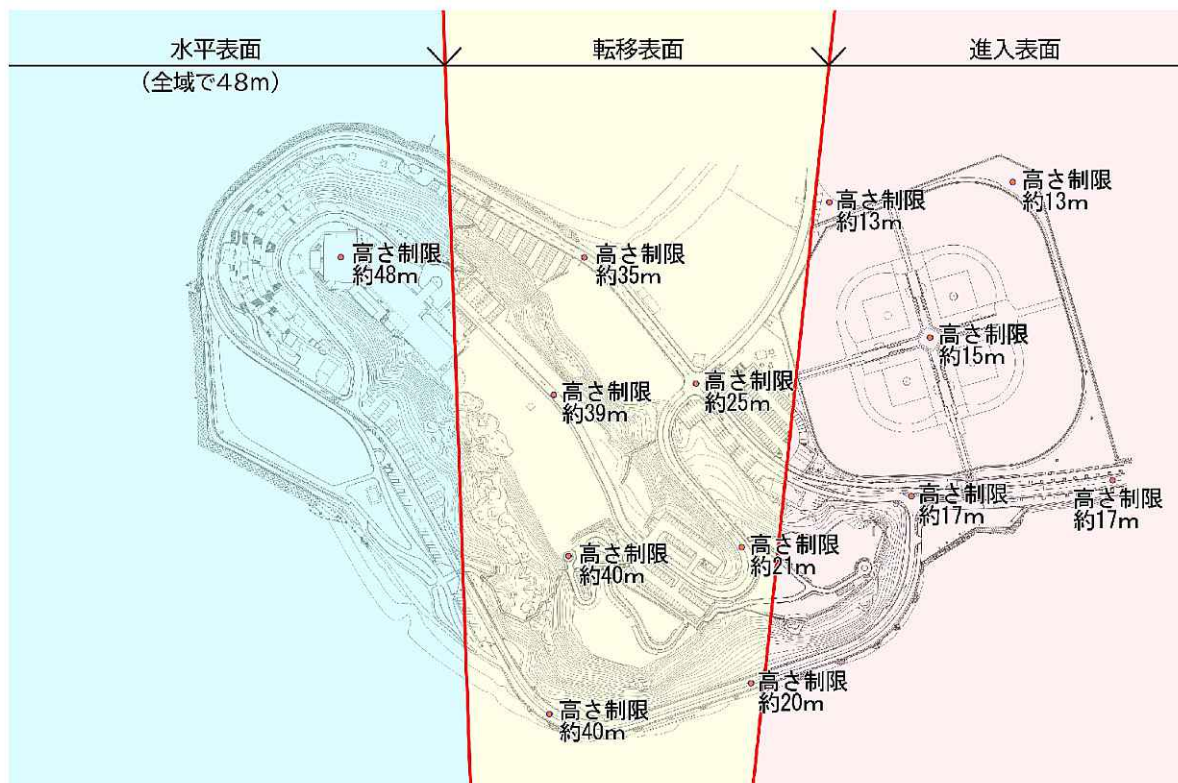
<許可を要するもの>

- ・観光資源の鑑賞等のために必要な展望台、宿泊施設及び休憩施設等（同法 34 条第 2 項）

② 空域制限

瀬長島は、那覇空港による空域制限がかかっています。野球場周辺に「進入表面」、瀬長島西部に「転移表面」の制限がかかるほか、瀬長島全域で「水平表面」の制限がかかっています。

図 瀬長島における高さ制限（標高）

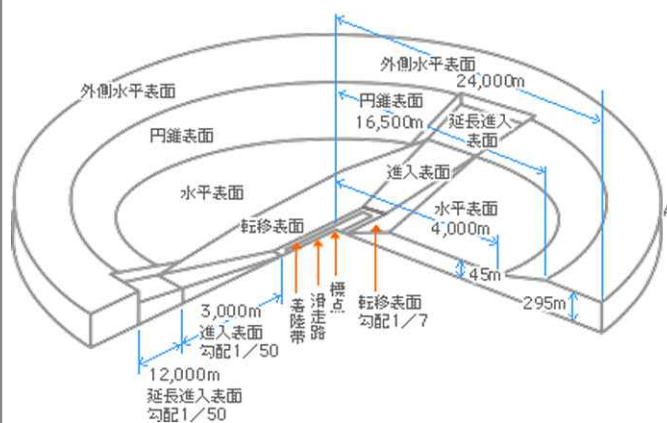


出典：那覇空港高さ制限回答システム（国土交通省大阪航空局、令和6年3月確認）より作成

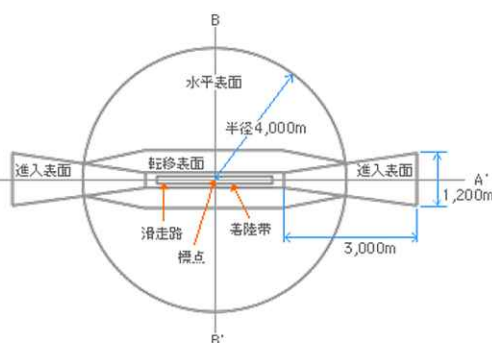
■参考：制限表面の概要

航空機が安全に離着陸するためには、空港周辺の一定の空間を障害物が無い状態にしておく必要がある。このため、航空法において、次のような制限表面が設定されている。

（制限表面概略図）



（制限表面の平面概略図）



出典：国土交通省大阪航空局 HP

4 島内の施設

(1) 施設の概要・管理者

瀬長島における主な施設の所有及び管理状況や施設内容は以下のとおりです。

施設名称	土地所有	建物所有	管理主体	施設内容
①豊見城市立 瀬長島野球場	市	市	民間※ ¹ (指定管理)	野球場(4面)／照明／シャワー／ 更衣室／トイレ／ポケットパーク (カニ公園)
②旧空の駅瀬長島	市	市	民間 (賃貸借)	飲食・物販施設
③サンセットパーク	市	市	市	広場／トイレ
④北(瀬長) ビーチ※ ²	瀬長区	民間	民間	サーフィン／遊泳／BBQ／宿泊施 設等
⑤温泉・宿泊施設 (瀬長島ホテル)	市	民間	民間	温泉／宿泊施設(100室)
⑥温泉・宿泊施設 (瀬長島ホテル アネックス棟)※ ³	市	民間	民間	温泉／宿泊施設(127室) ※令和9年開業予定
⑦飲食・物販施設 (ウミカジテラス)	市	民間	民間	飲食・物販施設(48店舗)
⑧温泉・宿泊施設 (STORYLINE 瀬長島)	民間	民間	民間	温泉／宿泊施設(101室)

※1…(有)沖縄ゼネラル・豊見城市教育委員会

※2…北(瀬長)ビーチは沖縄県水難事故の防止及び遊泳者等の安全の確保等に関する条例に規定する海水浴場ではありません。

※3…現時点でリゾート琉球(株)が検討している内容であり、今後の検討・許認可により変更となる可能性がある

(2) 施設の利用状況

瀬長島における主な施設の利用状況は以下のとおりです。

① 豊見城市立瀬長島野球場

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用人数	47,966	61,934	49,103	43,671	67,733
利用件数	1,929	1,963	2,231	2,250	1,947

5 交通の状況

(1) 公共交通

島内への公共交通はバスが2路線（ウミカジライナー（国際通り—那覇空港—瀬長島—糸満方面）、瀬長島ホテルエアポートリムジン（那覇空港—瀬長島））が運行しています。

運行本数は、「ウミカジライナー」は平日 24.5 往復/日、土日祝日は 24 往復/日、「瀬長島ホテルエアポートリムジン」は土日祝日のみで 6 往復/日の運行です。島内では、瀬長島ホテル及びストーリーライン瀬長島の付近に停車します。



	路線名	運行本数	
		平日	土日祝日
	TK02 ウミカジライナー	24.5 往復	24 往復
	TK04 瀬長島ホテルエアポートリムジン	—	6 往復

※運行事業者：東京バス

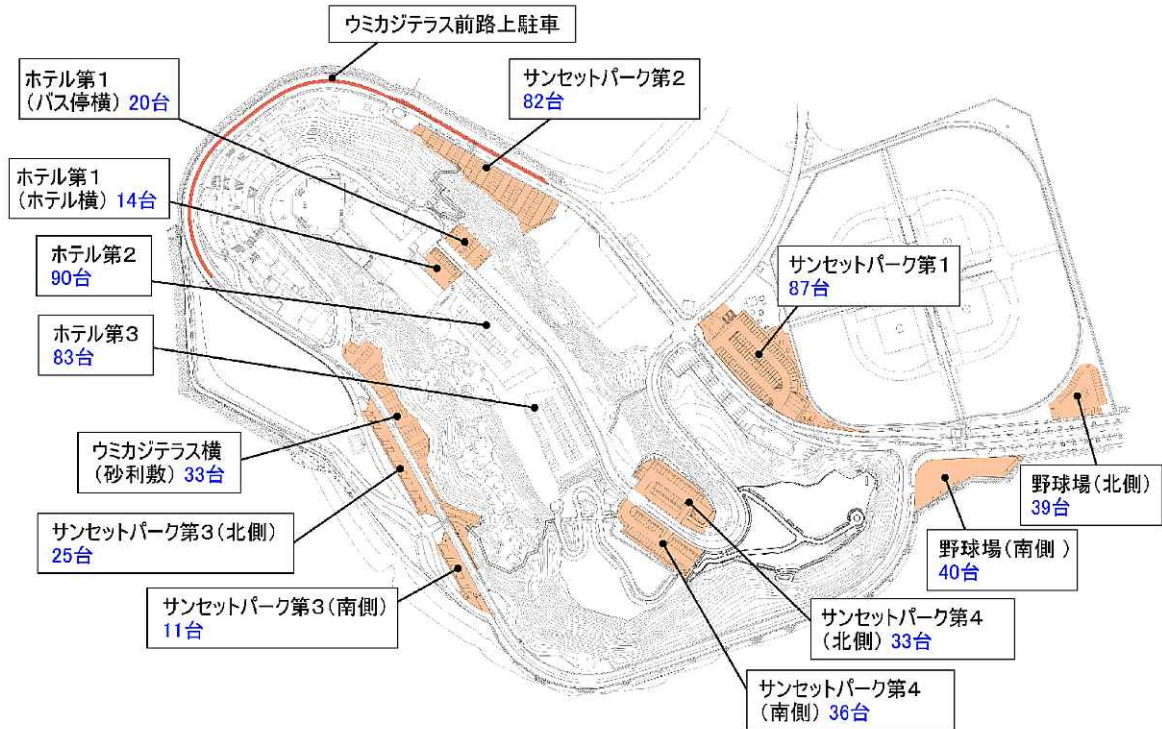
※令和 6 年 4 月 11 日ダイヤ改正時点

(2) 駐車場の状況

① 駐車容量

島内に駐車場は593台あります(野球場専用含む)。この他、ウミカジテラス前は路上駐車が一般化しており、最大約50台程度の駐車が見られます。

図 瀬長島における駐車場の位置と駐車可能な台数



② 利用実態

島内の駐車場の利用実態は、以下のとおりで、野球場周辺及びウミカジテラス周辺は5割～6割程度、瀬長島ホテル周辺では7割～8割程度の駐車場が埋まっています。ウミカジテラス周辺では半数以上がレンタカーとなっています。また、年間の最大の駐車場需要は現在の駐車可能台数を上回っていると想定されます。

<調査方法>

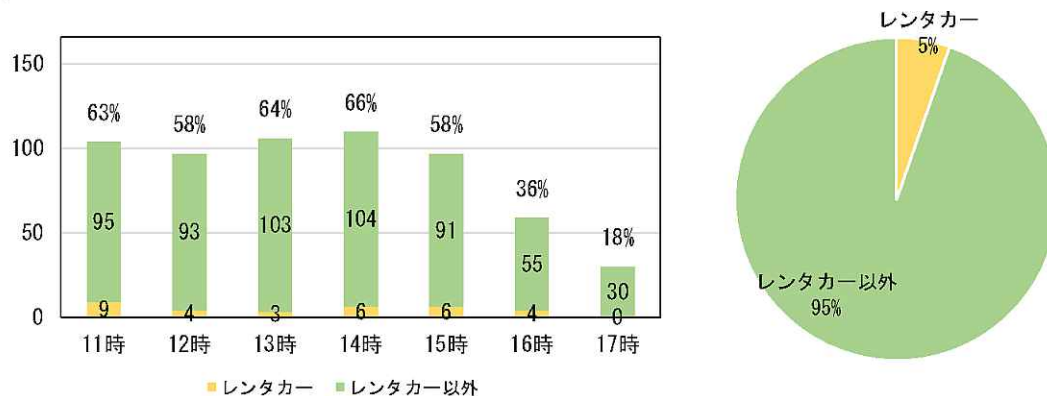
調査日	令和5年12月23日(土)
調査時間	11時～17時(1時間おき)
当日の天気	曇り
調査方法	・調査員による目視での計測 ・レンタカーであるかは、車のナンバーにて確認

図 瀬長島における駐車場の利用状況（まとめ）

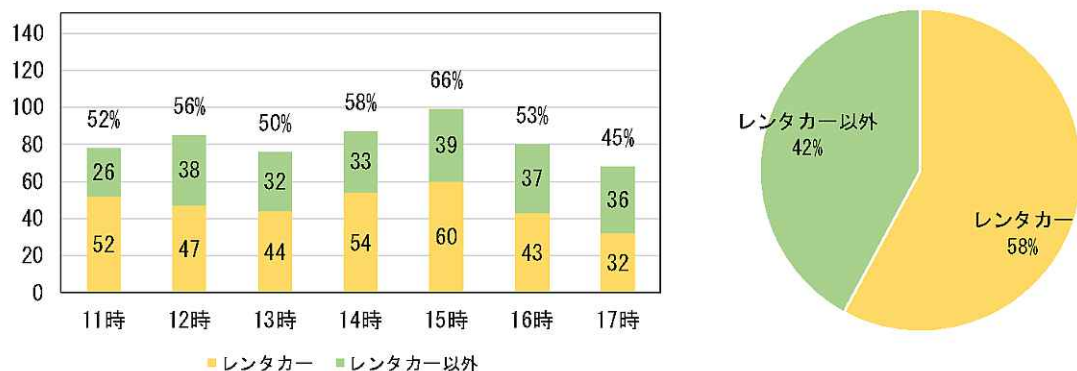
島内の駐車場を以下の3つに区分し、集計を行います。		
区分	対象駐車場	駐車台数
野球場周辺	野球場（北側・南側）、サンセットパーク第1	166 台
ウミカジテラス周辺	サンセットパーク第2、ウミカジテラス横（砂利敷）、サンセットパーク第3（北側・南側）	151 台
瀬長島ホテル周辺	ホテル第1（ホテル横・バス停横）、ホテル第2、ホテル第3、サンセットパーク第4（北側・南側）	276 台

（決まった駐車容量のないウミカジテラス周辺の路上駐車は集計対象外とする）

<野球場周辺>



<ウミカジテラス周辺>



<瀬長島ホテル周辺>

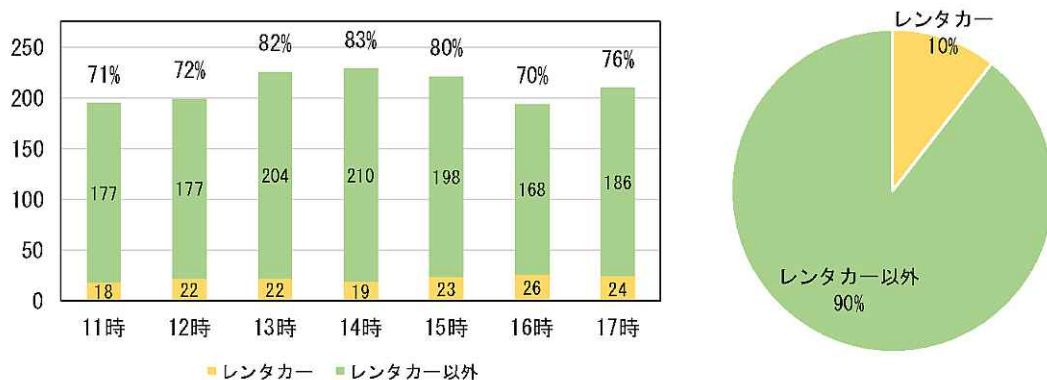
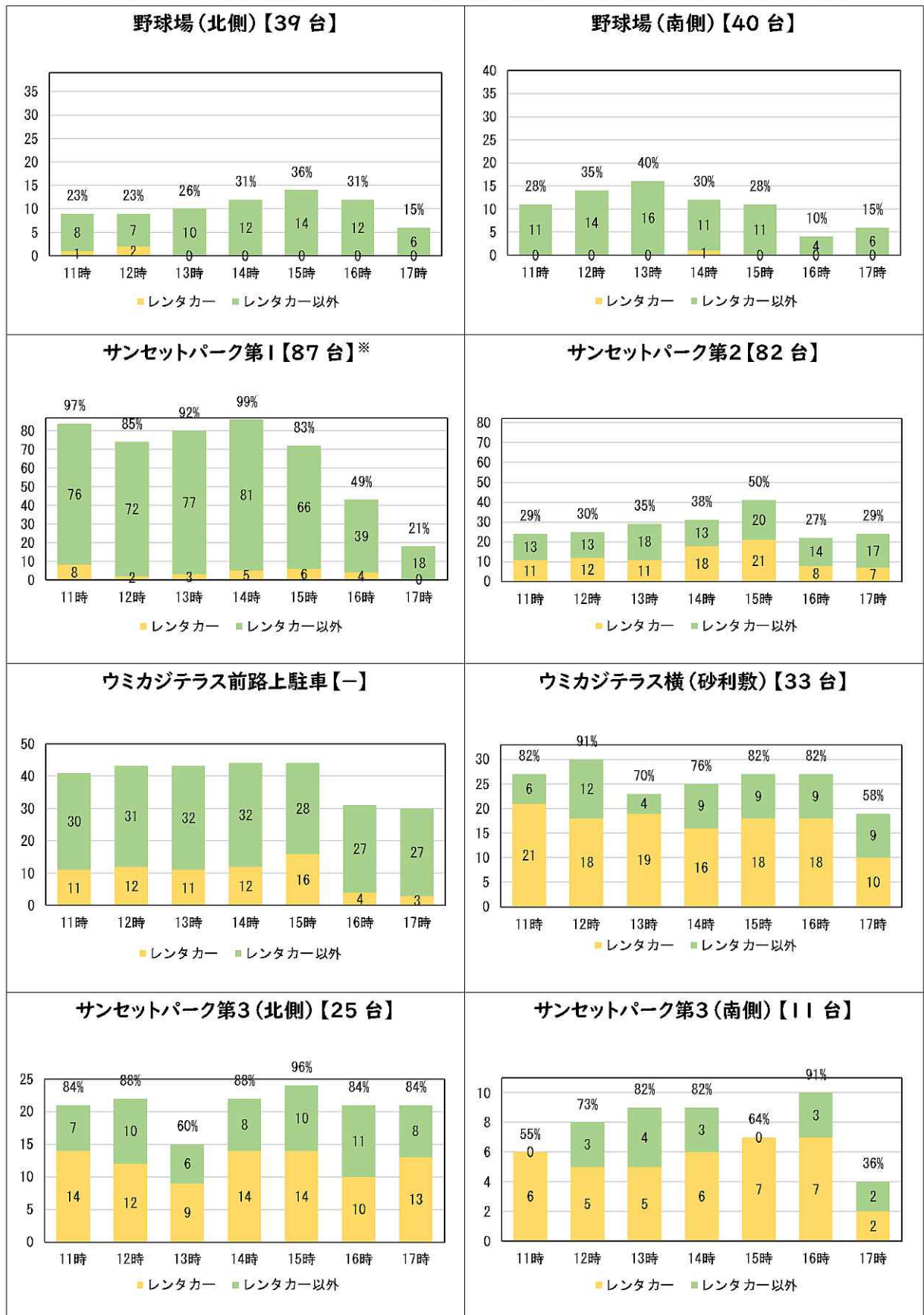


図 各駐車場の利用状況（グラフ内の%表示は駐車可能台数に対する駐車台数）



※サンセットパーク第1駐車場の13時については、実測での調査ができていないため、12時と14時の平均値を13時の結果としている

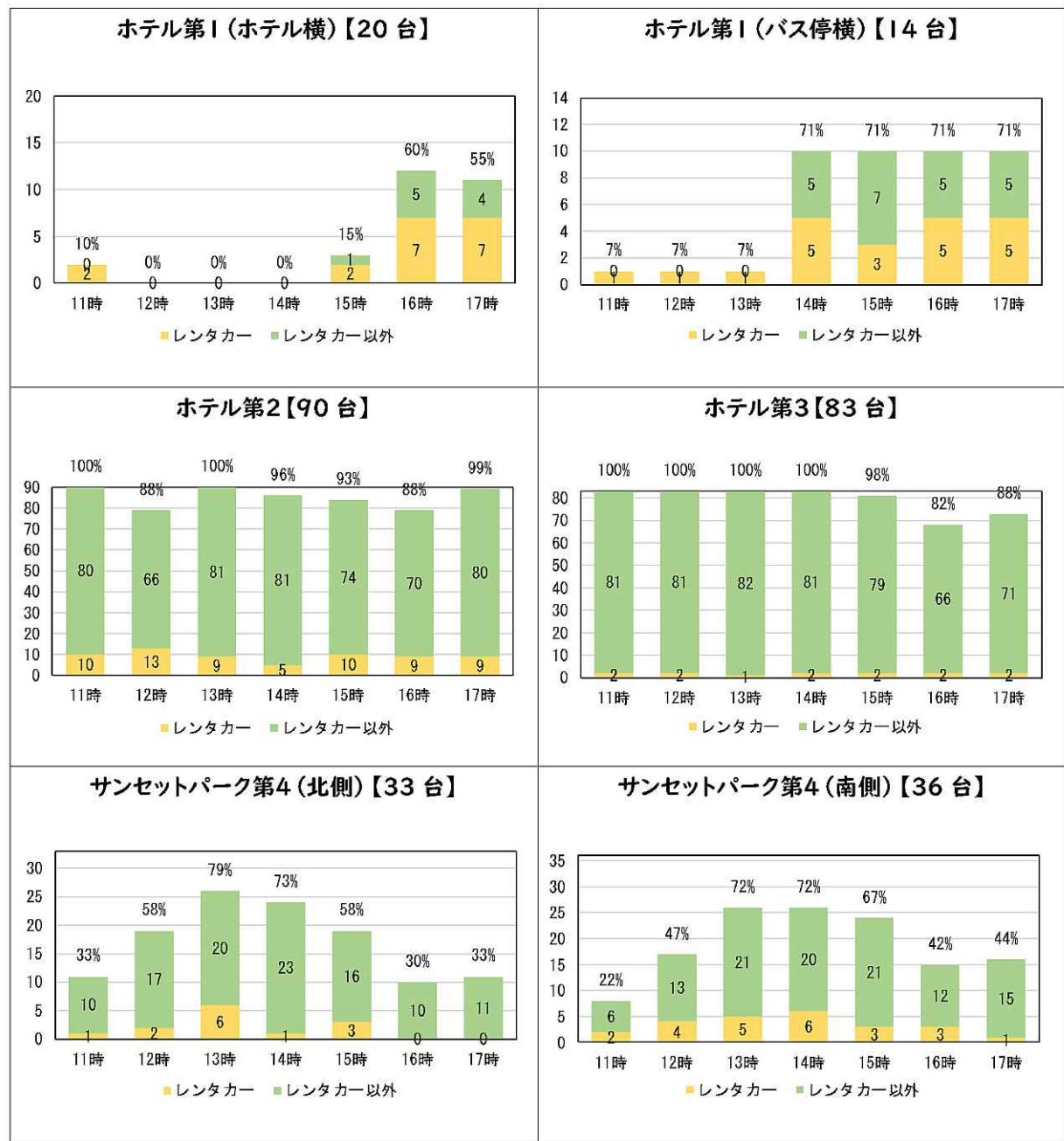


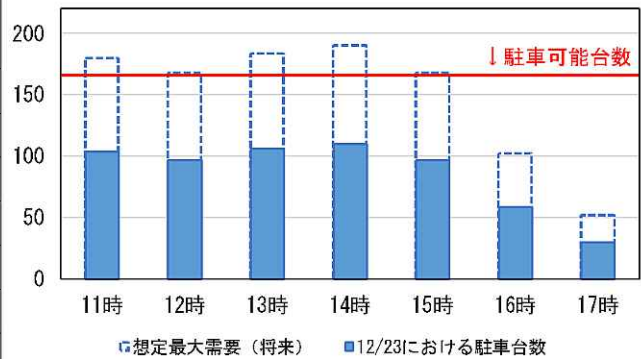
図 瀬長島における最大の駐車需要

瀬長島における最大の駐車需要を以下の条件から算出します

- ・瀬長島における1年間(令和5年3月～令和6年2月)のピーク1週間(5月第1週)における平均来島者数は、駐車場の利用実態調査の調査日(12月23日)より、1.49倍の来島者があった(来島者についてはP29参照)
- ・将来の瀬長島の来島者は最大16%増加することが想定される(来島者の将来推計はP32参照)
- ・そのため、調査日の実際の駐車台数に1.728倍(1.49×1.16)を行うことで、瀬長島において想定される最大の駐車需要を算出した

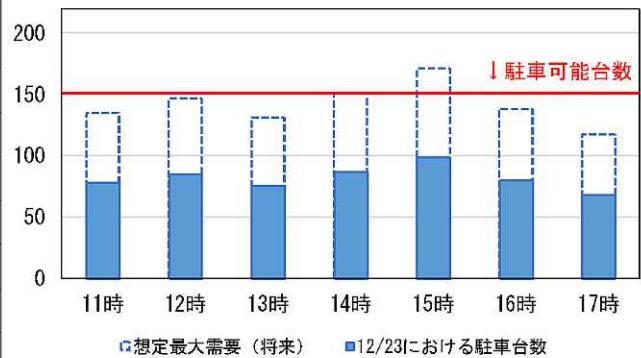
<野球場周辺>

	駐車可能台数	駐車台数	想定最大需要
11時	166	104	180
12時		97	168
13時		106	183
14時		110	190
15時		97	168
16時		59	102
17時		30	52



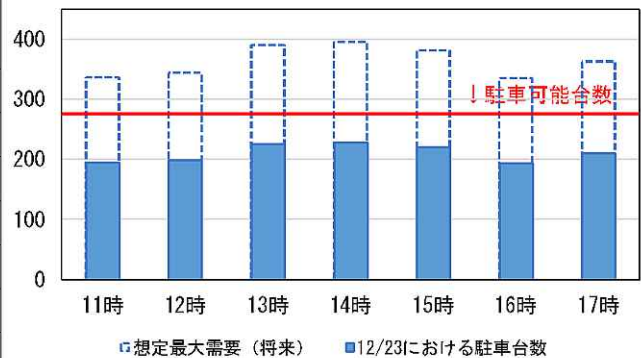
<ウミカジテラス周辺>

	駐車可能台数	駐車台数	想定最大需要
11時	151	78	135
12時		85	147
13時		76	131
14時		87	150
15時		99	171
16時		80	138
17時		68	118



<瀬長島ホテル周辺>

	駐車可能台数	駐車台数	想定最大需要
11時	276	195	337
12時		199	344
13時		226	391
14時		229	396
15時		221	382
16時		194	335
17時		210	363



■参考：瀬長島における最混雑日の状況

令和6年5月3日において、ゴールデンウィーク、クルーズ船2隻来航、野球場でのイベント開催が重なり、大きな混雑が発生しました。駐車場が大幅に不足し、路上駐車（大型バスを含む）が広いエリアで発生し、交通安全上のリスクも懸念される状況でした。

多くの来訪者で賑わうことは望ましいことですが、駐車場の不足による道路混雑の発生、交通安全上のリスクが懸念される状況は観光面における魅力の低下（オーバーツーリズム）に繋がっており、今後さらに来島者の増加が想定されることを踏まえると、早期の対策が必要です。



商業施設から離れた場所まで路上駐車が発生
（来訪者の利便性も低下）



大型バスも駐車場がなく、路上駐車場が発生
著しく見通しが悪く、交通安全のリスクが高い

6 利用状況

(1) 年間来島者数

令和3年度に本市が行った調査では、推定年間交通量は約151万台、推定年間来島者数は約273万人となっています。平成25年2月に策定した瀬長島観光拠点整備計画時の交通量推計及び来島者数推計と比較すると交通量が約2.8倍、来島者数が約2.7倍と多くの来島者で賑わっていることがうかがえます。

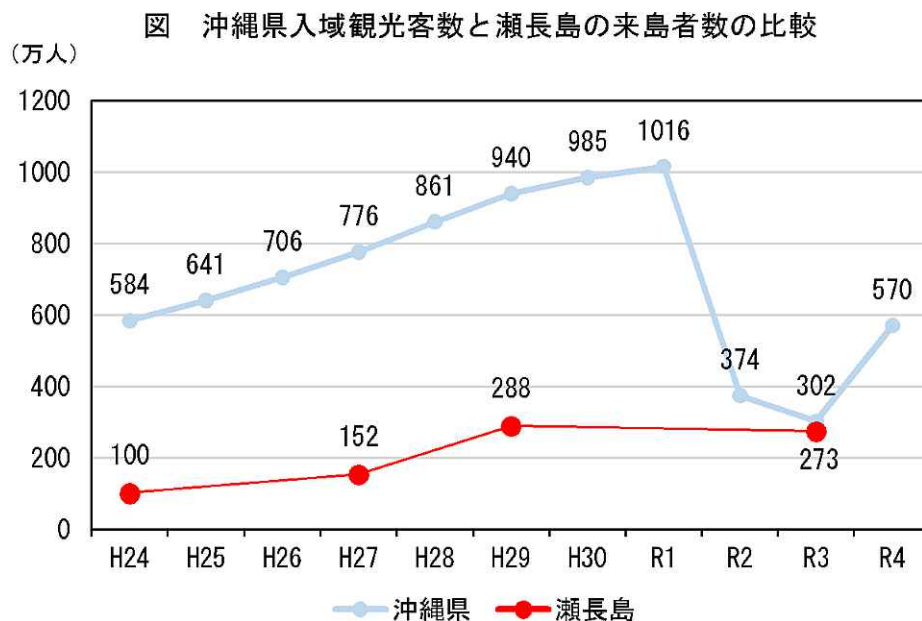
表 推定来島者数の車種別推計

車種	区分	年間交通量 (千台)	年間来島者 (千人)
貨物自動車	平日	86	103
	休日	8	9
	全日	94	112
乗用車 (一般・レンタカー)	平日	662	893
	休日	617	1,018
	全日	1,279	1,911
観光・路線バス	平日	16	382
	休日	7	193
	全日	23	575
バイク	平日	63	75
	休日	46	57
	全日	109	132
総計		1,505	2,730
(参考)H25 調査		約 530	約 1,000

出典：瀬長島観光拠点整備事業目的達成度調査業務委託報告書（令和4年3月、豊見城市）

来島者数は、平成24年から平成29年にかけ増加傾向にありましたが、コロナ禍である令和3年にはやや減少しました。本県の入域観光客数と比較すると、入域観光客の増加と連動して瀬長島の来島者も増加してきましたが、平成29年から令和3年にかけて入域観光客数は大幅に減少しているのと比較し来島者数は微減にとどまっています。

これは、コロナ禍前後とも県民の利用が一定数あり、旅行需要に大きく影響されなかったことが想定されます。



出典：(瀬長島) 瀬長島観光拠点整備事業目的達成度調査業務委託報告書（令和4年3月、豊見城市）
 (沖縄県) 観光要覧令和3年版（令和4年12月、沖縄県）

(2) 来島者属性等

来島者の属性等について、携帯電話の位置情報を活用した統計データを使用し、分析しました。

なお、NTT 西日本／みんなのまち AI も活用し、同様の調査を実施しましたが、傾向は概ね同じでした。

■計測方法

携帯電話(au)の位置情報を活用し、対象とした施設や範囲内に来訪して15分以上滞在した人の数を抽出。サービス提供元が統計処理を加えて町丁目別で総人口に対応する推計値に変換したものを来訪者数としている。

※20歳未満は集計対象外

※携帯電話(au)の位置情報を活用しているため、訪日外国人のほとんどは計測されていないと推定

※来島者数等の実数は実態とズレが大きい傾向があるため、割合や推移等を調査・評価の対象とする(そのため、グラフの軸の数値を表示していないものがある)

■計測期間

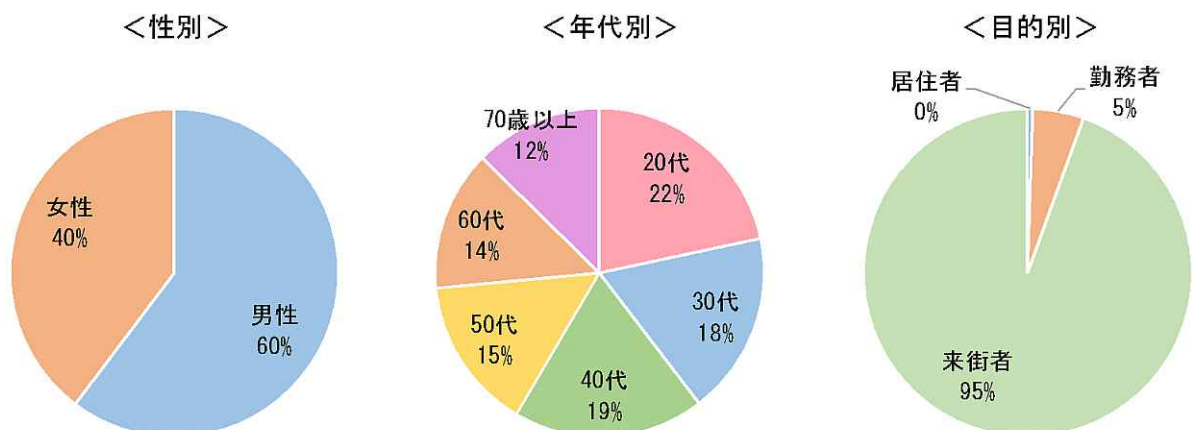
令和5年3月1日～令和6年2月29日(1年間)

※データ提供:技研商事インターナショナル株式会社「KDDI Location Analyzer」

① 来島者属性

来島者の属性をみると、性別では男性がやや多く、年代別では20～40代がやや多くなっています。居住地別では県内在住の方が72%と多く、県外在住の方は関東地方が多くなっています。また、直近1年間で、豊見城市民の約13%が瀬長島を訪れていると推計されています。

図 来島者の性別・年代別・目的別の属性



※目的別における「居住者」「勤務者」

勤務者：直近1ヶ月の昼間の最頻滞在地が対象区域にある人の割合

居住者：直近1ヶ月の夜間の最頻滞在地が対象区域にある人の割合

図 来島者の居住地

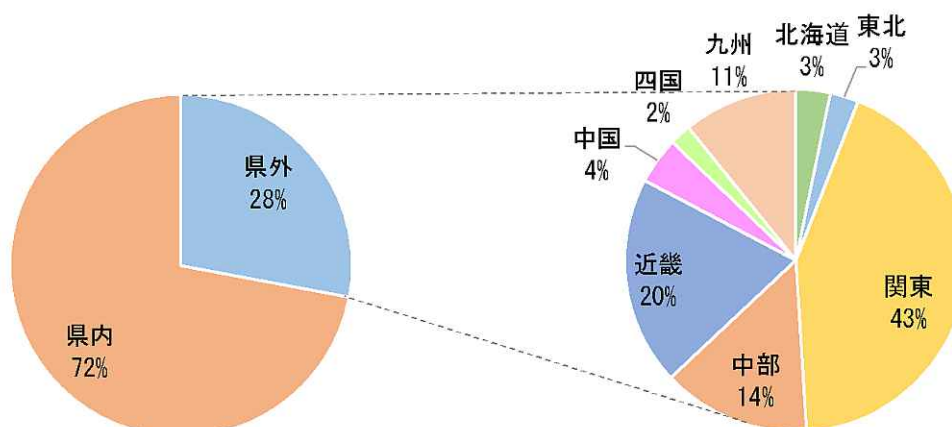


表 獲得率（県内在住）

※国勢調査における市町村別の20代以上の人口に対する、集計期間内の20代以上来訪者数の割合
(獲得率3%以上の市町村のみ表示)

市町村	獲得率	市町村	獲得率
豊見城市	12.7%	浦添市	3.7%
糸満市	9.9%	南城市	3.7%
八重瀬町	7.6%	与那原町	3.2%
那覇市	6.3%	西原町	3.1%
南風原町	5.4%	中城村	3.1%

表 獲得率（県外在住）

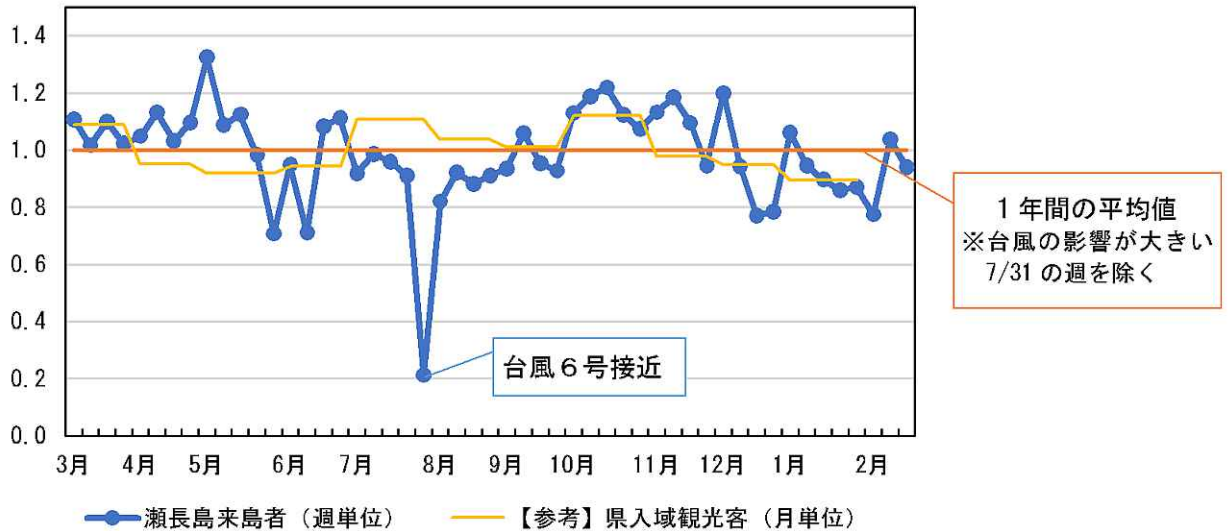
※沖縄県入域観光客数のうち、瀬長島を訪れた人の割合

獲得率	8.6%
(算出方法) ・沖縄県入域観光客(H29) 940万人 ・瀬長島来島者のうち県外客(H29) 288万人×0.28※=80.6万人 ・沖縄県入域観光客の獲得率(H29) 80.6万人÷940万人=8.6% ※H29における来島者の居住地分析はできないため、令和5年3月から1年間のデータで代用	

② 来島時期の分析（1年間の推移）

来島者の来島時期（週単位）をみると、春（3月～5月ごろ）及び秋（10月～12月ごろ）が比較的多く、夏場や冬場は比較的小さくなっており、これは、利用者の割合の高い県民が梅雨時期や夏場、冬場を避けたことが要因と想定されます。

図 年間平均を1としたときの週別の来島者数



③ 来島日の分析（曜日ごと）

来島者の来島日（曜日別）をみると、平日に比べ土日の来島が多い状況です。これは、観光目的での来島が影響していると推察されます。

なお、男女別では、男性は曜日による違いは小さく、女性は平日に比べ土日の来島が多い状況です。また、年代別では、30代以上は平日に比べ土日の来島が多いものの、20代ではそのような傾向はみられません。

図 来島者（曜日別・男女別）の状況

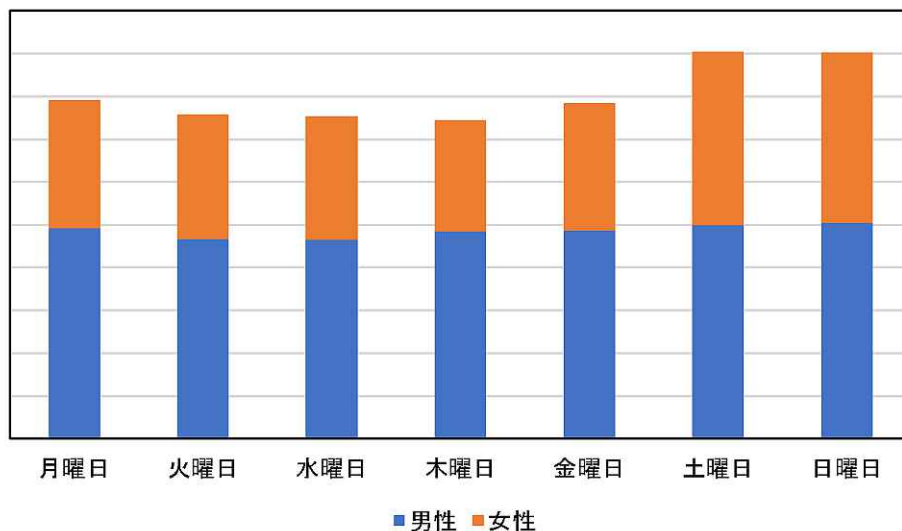
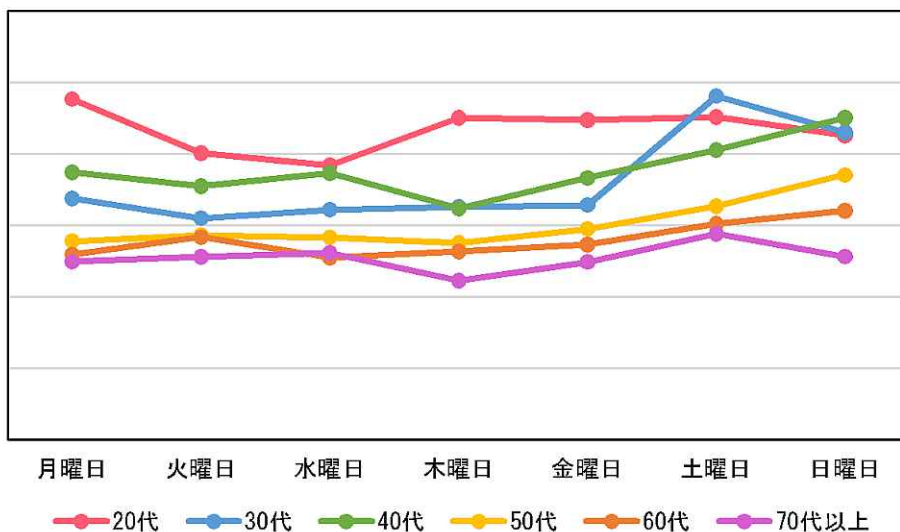


図 来島者（曜日別・年代別）の状況



④ 来島時間の分析

瀬長島における来島者の来島時間をみると、10時から17時ごろが多く、14時から15時ごろがピークを迎えます。一方で、23時ごろまでは宿泊施設や商業施設があることから一定の来島者があるものの、減少傾向にあります。これは、ナイトタイムエコノミーが課題であると推察されます。なお、男女別及び年代別での傾向の違いはなく、年代別でみると、昼間は40代が多く、夜間は20代が多い状況で、曜日による傾向の違いはありません。

図 来島者（時間帯別・男女別）の状況

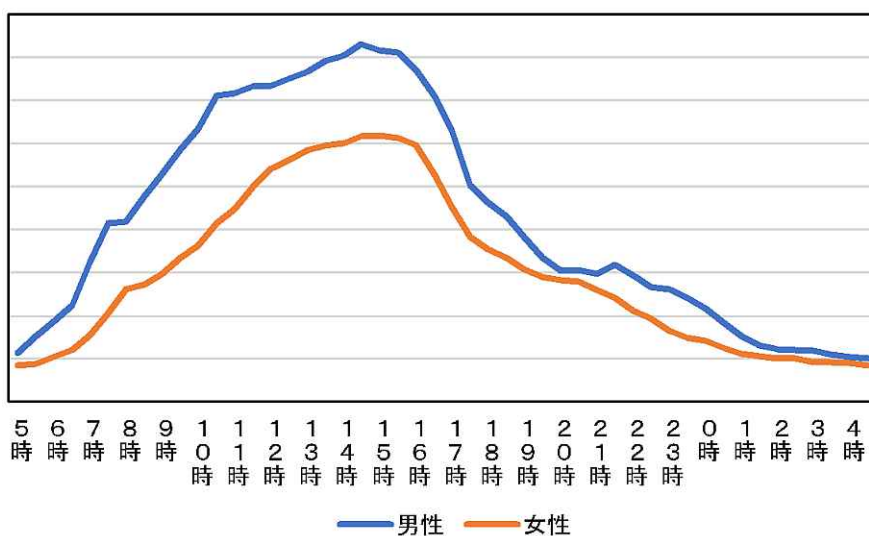


図 来島者（時間帯別・年代別）の状況

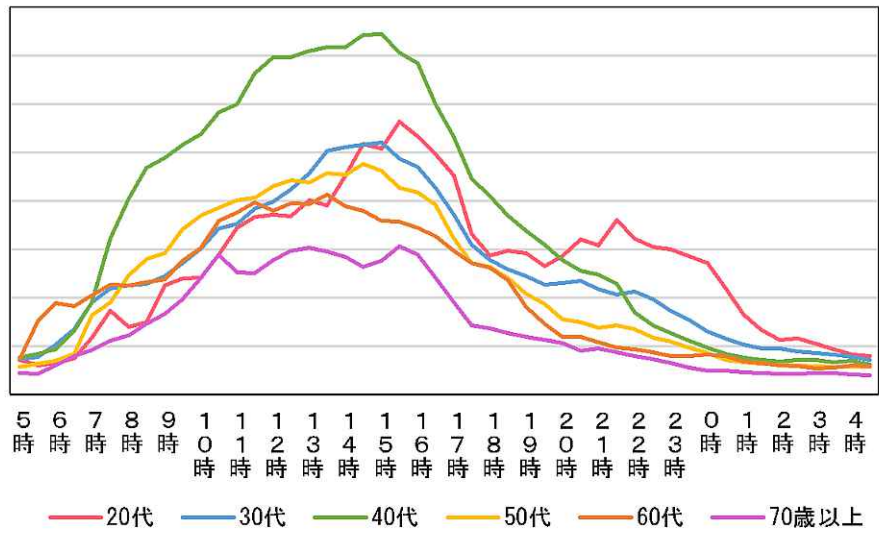
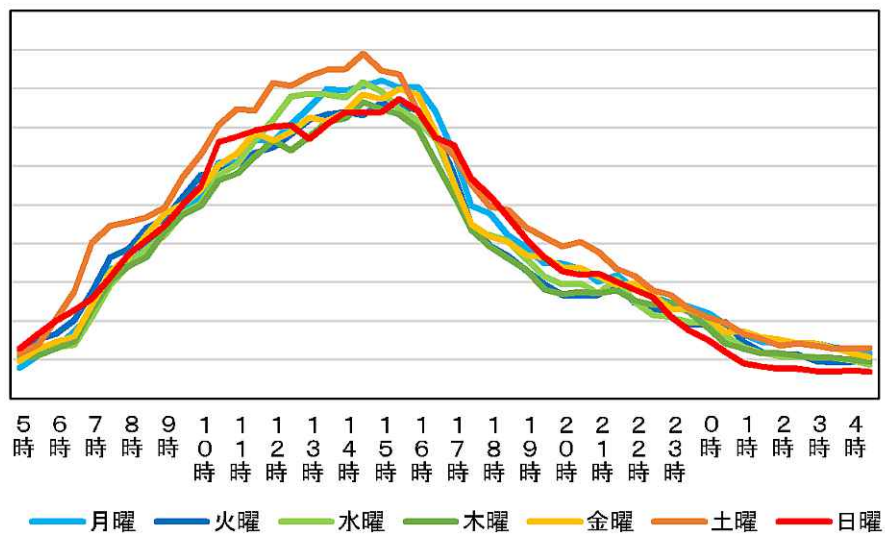


図 来島者（時間帯別・曜日別）の状況



(3) 年間来島者数の将来推計

沖縄県観光振興基本計画の目標値等から瀬長島の年間来島者を予測すると、今後も順調に増加し、令和13年には290.1万人～316.7万人となります。

①現在の年間来島者 約273万人※1 うち、県内客197万人(72%)、県外客76万人(28%)※2
②県内客の将来推計 令和13年に197万人(±0) <算出方法> ・県民の来島頻度は変化しないと仮定し、人口の増減より算出 ・沖縄県人口：(令和2年)146.7万人※3 → (令和12年)145.9万人※4 ・横ばいであり、県内客の来島者は変動しないと想定
③県外客の将来推計 令和13年に79.8万人～106.4万人(+3.8万人～+30.4万人) <算出方法> ・沖縄県観光振興基本計画を参考に算出 ・同計画では令和13年における目標値として人泊数(延宿泊者数)4,200万人を掲げる ・令和4年度における平均泊数は3～4泊※5 ・したがって、令和13年における入域観光客数は1,050万人～1,400万人が目標となる ・平成30年度の入域観光客数は1,000万人※6であり、5%～40%の増加が目標となる ・瀬長島における県外客76万人も5～40%の増加と推計し、79.8万人～106.4万人
④新規施設の開業により増加する来島者の将来推計 13.3万人(皆増) <算出方法> ・新規施設(ストーリーライン瀬長島、瀬長島ホテルアネックス棟)の年間宿泊者の合計 ・ストーリーライン瀬長島：101室※7×2人×365日×稼働率80%※8=約5.9万人 ・瀬長島ホテルアネックス棟：127室※9×2人×365日×稼働率80%※8=約7.4万人
⑤令和13年における年間来島者数 上記①～④より、290.1万人～316.7万人(6.3%増～16.0%増)

※1 瀬長島観光拠点整備事業目的達成度調査業務委託(R3)報告書(令和4年3月、豊見城市)

※2 P28 参照

※3 国勢調査(2020年)

※4 日本の地域別将来推計人口(令和5年12月、国立社会保障・人口問題研究所)

※5 令和4年度観光統計実態調査(沖縄県)

※6 平成30年度 沖縄県入域観光客統計概況(令和元年11月修正、沖縄県)

※7 東急ホテルズHPより

※8 2022年度県内主要ホテルの稼働状況(令和5年9月、沖縄振興開発金融公庫)

(新型コロナの影響のない2018年度において、シティホテル79.0%、リゾートホテル79.4%、宿泊特化型ホテル84.3%であることを踏まえ設定)

※9 リゾーツ琉球(株)より

1-2 上位関連計画

1 上位関連計画における瀬長島の位置づけ

(1) 沖縄21世紀ビジョン(平成22年3月)

- ・自然環境の持続的な利活用に向けて利用区分や環境収容能力の考え方に基づく仕組みづくり
- ・沖縄の観光リゾート地としての質の向上等に向けて、文化産業を戦略的に創造・育成
- ・世界水準の目的地型リゾートを、環境収容力への配慮のもとで形成

■将来像

<基本理念>

21世紀に求められる人権尊重と共生の精神を基に、
 “時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな「美ら島」おきなわ”
 を創造する。

<めざすべき5つの将来像>

- 1) 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島
- 2) 心豊かで、安全・安心に暮らせる島
- 3) 希望と活力にあふれる豊かな島
- 4) 世界に開かれた交流と共生の島
- 5) 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

■瀬長島に関係する主な記載事項

(第Ⅱ部 将来像実現に向けた展開方向)

(1) 「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」推進戦略

1) 沖縄グリーン・イニシアティブ

- ・自然環境の持続的な利活用に向けて、利用区分(ゾーニング)や環境収容力(キャリング・キャパシティ)の考え方に基づくルール・仕組みづくりを行うとともに、先進的な自然環境の保全・再生を推進する。

2) 沖縄伝統文化・芸術の創造と活用

- ・沖縄の観光リゾート地としての質の向上、新たな産業と雇用の創出に向けて、芸術文化、エンターテインメント文化、食文化等文化産業を戦略的に創造・育成する。

(3) 「希望と活力にあふれる豊かな島」推進戦略

3) 沖縄新・リーディング産業育成

- ・観光投資や観光客を世界中から呼び込む核となる世界水準の「デスティネーションリゾート」(目的地型リゾート)を、環境収容力(キャリング・キャパシティ)への配慮のもとで形成する。

(2) 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）（令和4年5月）

- ・観光地としての受入品質を「快適」なレベルまで高め、誰もがリラックスして楽しめる国際的な観光地にふさわしい観光まちづくり
- ・空港・港湾の観光拠点間の移動の円滑化を図るため、主要観光拠点を観光二次交通の交通結節点として位置付け、多様なモビリティを活用したシームレスな乗り継ぎサービスの提供に取り組む

■施策展開の基本的指針・基本方向

「安全・安心で幸福が実感できる島」

- ・平和で生き生きと暮らせる「誰一人取り残すことのない優しい社会」の形成
- ・世界とつながり、時代を切り拓く「強くしなやかな自立型経済」の構築
- ・人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

■瀬長島に関係する主な記載事項

（第4章基本施策-基本施策3（2）世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革）

ア「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進

② 快適で魅力ある観光まちづくりの推進

- ・沖縄らしい風景の保全や創出、憩いの場やレクリエーション施設の整備に加え、空港、港湾の緑化、良好な沿道景観の形成等、観光地としての受入品質を単なる「安全・安心」だけではない「快適」なレベルまで高め、誰もがリラックスして楽しめる国際的な観光地にふさわしい観光まちづくりに市町村、観光協会、観光関連団体と連携して取り組みます。また、観光客を受け入れる県民一人ひとりのホスピタリティ意識を高める運動を推進します。

エ DX による沖縄観光の変革

④ 観光二次交通の利便性向上及び利用促進

- ・国内外から来訪する観光客の二次交通の利便性及び満足度の向上を図るためには、観光客が最適なモビリティの情報を収集し、かつ容易に利用できる環境が必要です。このため、民間が取り組む MaaS や CASE 等の基盤となる公共交通情報等のオープンデータを継続的に利用できる環境の構築・維持や、公共交通におけるコンタクトレス決済の普及に取り組み、ICT を活用した新たなサービスの創出を促進します。
- ・また、空港・港湾の観光拠点間の移動の円滑化を図るため、主要観光拠点を観光二次交通の交通結節点として位置付け、自動運転技術を活用した新たなモビリティや脱炭素の視点を踏まえた電気自動車（EV）等の次世代自動車、カーシェアリングの活用を検討等、多様なモビリティを活用したシームレスな乗り継ぎサービスの提供に取り組むとともに、既存公共交通機関の利便性向上、レンタカー貸渡拠点の分散化を推進します。

(3) 第6次沖縄県観光振興基本計画(令和4年7月)

- ・主要観光拠点を観光の二次交通結節点として位置づけ、空港・港湾と観光拠点間を自動運行する新たなモビリティの活用を検討
- ・自然環境や歴史・伝統文化と調和する沖縄らしい風景づくりを進める

■目指す将来像・施策の基本方向

「世界から選ばれる持続可能な観光地」-世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島沖縄」-

- (1)安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント
- (2)多彩かつ質の高い観光に向けたDXの推進
- (3)沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進
- (4)基盤となる旅行環境の整備
- (5)脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応
- (6)人材育成と人材確保の推進

■瀬長島に関する主な記載事項

(第5章基本施策-(4)基盤となる旅行環境の整備)

ウ 観光二次交通

- ・空港・港湾と観光拠点エリアの移動が円滑に行えることにより、観光客の周遊性の拡大・向上による観光消費額の向上が期待できるため、空港・港湾から観光地までの交通手段となるモノレール、バス、タクシー、レンタカー、船舶等の二次交通の機能強化を図りつつ、主要観光拠点を観光の二次交通結節点として位置づけ、空港・港湾と観光拠点間を自動運行する新たなモビリティの活用を検討する。
- ・また、シームレスな乗り継ぎサービスの提供のほか、空港・港湾と観光拠点エリアの観光二次交通結節点を結ぶ公共交通機関の利便性向上、レンタカーステーションの分散化等観光二次交通の利便性向上に向けた取組を推進する。
- ・さらに、観光客の公共交通の利便性・満足度向上を図るため、民間が取り組む出発地、沖縄県、経由地等でも活用できる共通MaaS周遊券の推進や公共交通情報等のオープンデータを継続的に利用できる環境を維持するとともに、公共交通におけるコンタクトレス決済の普及を促進することで、ICTを活用した新たなサービスの創出を促進する。

カ 沖縄らしい風景づくり

- ・今後返還が予定される大規模な駐留軍用地跡地利用を県全体の振興発展につなげるとともに、無秩序な開発が広がることで、本来守るべき自然資源や歴史資源が失われることがないよう、自然環境の保全や伝統・文化の継承と経済振興の均衡のとれた県土づくりに取り組む。
- ・また、本県のソフトパワーの源泉である自然環境や歴史・伝統文化と調和する沖縄らしい風景づくりを進めるとともに、首里城跡をはじめとする「琉球王国のグスク及び関連遺産群」等世界遺産の価値をさらに高める取組を推進する。

(4) 第5次豊見城市総合計画(令和3年3月)

- ・地域文化財の保護・整備・活用事業等を推進
- ・瀬長島に観光関連産業を中心とする計画的なバランスの取れた商業・宿泊施設の立地促進
- ・ICT環境や観光消費額の調査・分析等に基づく質を重視した持続可能な観光推進
- ・公園緑地における環境美化ボランティアの登録

■将来像

<基本理念>

と
響むまち・豊見城

<まちづくりのテーマ(将来像)>

Welcome な思いで ハートがつながり みんなで彩るまち とみぐすく

■瀬長島に関係する主な記載事項

(前期基本計画)

施策分野 1-4 地域文化の振興

2. 歴史的・文化的資源の保護・整備活用

- ・文化財保護法改正に関連して、地域住民の参画も得ながら市域全体の総合的な文化財保存活用基本計画の構想・策定・実施を推進します。その後、グスク等の遺跡や地域の魅力を高めるための個別計画策定を検討します。
- ・また、地域の歴史や文化財等の価値を再発見し、魅力的な形で伝えていくために地域文化財の保護・整備・活用事業等を推進し、史跡巡り等市民が暮らしの中で地域の文化財等を身近に感じてもらうために情報発信を行います。

施策分野 3-4 企業立地の支援

2. 計画的な商業地配置

(1) 観光関連産業の立地促進

- ・豊崎、瀬長島に観光関連産業を中心とする計画的なバランスの取れた商業・宿泊施設の立地促進に努めます

施策分野 3-5 観光・リゾート産業の振興

1. 観光振興体制の充実

- ・新型コロナウイルス等に対応した今後の観光振興施策のあり方を検討し計画的な取組を進めながらも、その都度の環境変化にも柔軟に対応していきます。
- ・また、ICT(情報通信技術)環境や標識、観光案内等の環境整備や、観光消費額の調査・分析に基づく質を重視した持続可能な観光推進を図ります。

施策分野 4-7 公園・緑地の整備

3. 維持管理の工夫

- ・公園・緑地の美化ボランティアにおける個人・団体等の協力に関しては、市のホームページや広報紙等を通じて活動状況を周知するとともに、現状市外団体からも問合せのある瀬長島や豊崎美ら SUN ビーチにおける環境美化ボランティアの登録を進めます。

(5) 第2次豊見城市観光振興計画(令和6年3月)

- ・恵まれた立地条件を活かしたリゾート地の形成を図るため、駐車場の整備や新たな公共交通の整備等による渋滞緩和対策を推進するとともに、BBQやマリナクティビティの他、ナイトコンテンツの充実等を目指し、非日常気分でラグジュアリーな体験が可能な観光地の形成を推進

■将来像

ウェルカムな思いで ハートがつながり みんなで彩るまち
～次の旅がより楽しみになる とみぐすく～

■瀬長島に関係する主な記載事項

(第4章 施策と具体的な取組み)

基本目標1 市民の生活が豊かに彩る観光

施策1-1 瀬長島の更なる活性化

- ・空港から15分という恵まれた立地条件を活かしたリゾート地の形成を図るため、駐車場の整備や新たな公共交通の整備等による渋滞緩和対策を推進するとともに、BBQやマリナクティビティの他、ナイトコンテンツの充実などを目指し、非日常的かつラグジュアリーな体験が可能となる観光地の形成を推進します。

主な取組み	活動指標
・駐車場の拡充 ・事業者との連携によるアクティビティやコンテンツの開発 検討・支援	・駐車場整備の完了 ・アクティビティやコンテンツの開発数

(瀬長島だけでなく、市全体に関わる施策と具体的な取組みで参考とすべきもの)

施策1-8 民間活力の活用

- ・民間事業者の創意工夫等を最大限活用し、公共サービスの向上、地域経済の活性化及び財政負担の軽減等を目的に、民間事業者等から事業提案の募集を行います。

施策2-2 まち歩きストーリーの作成

- ・市観光協会、関係団体と連携し数パターンのモデルコースを作成し、ガイドブック化する等、観光客が容易に市内を周遊できるようにします。

施策2-3 周遊を促進する空間や仕組みの整備

- ・本市へ訪れた観光客がわかりやすく、効率的に周遊することができ、市民も案内しやすいように観光施設への誘導看板等の改修や拡充を推進します。

施策2-4 風土に根付いた景観づくり

- ・とみぐすくの前風景ともいえる田園景観等の保全・形成に努めるとともに、市街地や集落地においては、地域特性に応じた景観の創造に努めます。

施策2-6 観光地としての危機管理の推進

- ・那覇空港から近い本市の地勢を鑑み、大規模災害発生時には住民と観光客が混在する可能性がある為、4Rを確実に実施できるように観光危機管理計画の策定を行います。

※4R:平常時の減災対策(reduction)、危機への対応の準備(readiness)、危機への対応(response)、危機からの回復(recovery)。

施策2-7 歴史文化講座等の充実

- ・市民や市内事業者に地域の自然や歴史文化、平和について学ぶことで地域への理解を深め、観光まちづくりへの興味や関心を抱いてもらうため、歴史文化、平和について学ぶ講座や鑑賞会、企画展等を開催します。

施策3-1 環境美化活動の推進

- ・那覇市、漫湖自然環境保全連絡協議会と連携し、ラムサール条約にも登録されている漫湖及び漫湖周辺の河川の清掃や稚樹抜きイベントを継続的に実施するとともに、児童に対し自然環境の適切な保全や活用についての啓発に取り組みます。また、市内における道路や公園等の清掃を引き続き行い、景観の保全に努めます。

施策3-5 ブルーカーボンの推進

- ・地域と連携したブルーカーボンに関する取組を推進します。

施策4-3 新たな交通サービスの展開

- ・県内において展開されている様々なMaaS事業の動向を踏まえて、観光施設との連携等へのMaaS事業の活用を検討します。
- ・また、『まちづくりの推進に係る連携協力に関する協定』を締結した ZipInfrastructure 株式会社と連携し、今後、可能性等検討を進めます。
- ・その他、関係機関と連携し、本市に適した新たな地域交通システム導入検討を推進します。

施策4-5 観光関連団体との連携強化

- ・市観光関連団体と連携し、観光資源の調査研究、観光情報の発信・提供を行い本市への観光客の誘致を図ります。また、観光イベントや各種体験イベントをはじめ、本市の地域団体の実施する観光事業への支援・協力協働を行い、観光協会会員数の増加を目指します。
- ・その他、本市発祥のハーリー文化を活用したツアーの実施やハーリー大会の開催を推進し本市の新たな観光資源について積極的なPRを行います。

施策4-8 観光PRの強化

- ・市の広報誌やSNS等の積極的活用、観光協会との連携によるリーフレットの作成、市観光大使及び豊見城市アンバサダーと連携した情報発信等により、地域特産物や観光地のブランド力向上等、地域の活性化を図ります。また、市マスコットキャラクターの積極的活用を行い、観光PRをさらに強化します。

(6) 豊見城市都市計画マスタープラン(平成29年3月)

- ・臨空港型の観光リゾート地の形成を図る
- ・自然海岸線や礁池(イノー)、歴史・文化的資源を有する丘陵地の斜面緑地を維持・保全するとともに、自然と調和する観光関連施設の整備を促進

■将来像

ひと・まち・みどりが調和する誰もが住みやすい都市

サブテーマ ～「市の自立性・求心力を高める都市づくり」～

～「広域都市圏の一体的な発展に貢献する都市づくり」～

■瀬長島に関係する主な記載事項

(第4章将来都市構造)

瀬長島の 位置づけ	海洋レクリエーション 拠点	美しいサンゴ礁景観を守りつつ、海の環境を活かした観光・交流活動の活性化を担う場
	緑の拠点	良好な緑・水辺の環境を活かしながら、市民の休息やレクリエーション活動を支える場
	海洋環境ゾーン	観光資源としての活用や漁村の営みに配慮しつつ、サンゴ礁の特徴的な環境・景観の保全を図る地域

(第5章分野別方針)

5-1 市街地・拠点に関する方針

多様な拠点の形成—その他拠点の整備

- ・豊崎及び瀬長は、「豊見城市観光振興計画(H25.3)」に基づき、リゾートホテル、体験施設、コンベンション施設等多様な観光施設の整備を図り、海洋レクリエーション機能、健康・保養機能、ショッピング機能等を兼ね備えた臨空港型の観光リゾート地の形成を図る。

5-3 水と緑に関する方針

水と緑の骨格形成—河川と海岸線の保全

- ・海岸線については、自然海岸線や美しいサンゴ礁の礁池(イノー)を持つ瀬長島や、与根漁港及び豊崎の人工海浜を、自然や漁村の営みと観光産業が調和する「海洋環境ゾーン」として保全を図る。

自然資源の活用—拠点的な公園・観光関連施設の整備

- ・豊見城城址及び瀬長グスク、海軍壕公園は本市固有の歴史・文化的資源であるとともに、まとまった丘陵地の緑地が残存しておりランドマークとなっている。これらのまとまった緑地を、市民の憩いの場、レクリエーションの場、歴史学習の場を担う「緑の拠点」として保全・活用し、公園・観光関連施設の整備を推進する。

自然資源の活用—水辺環境の整備

- ・那覇市近郊で数少ない自然海岸線を有する瀬長島は、干潮時は干潟が出現するサンゴ礁池に囲まれた豊かな自然を持ち、沖縄本島から自動車や徒歩等で渡ることが可能であることから、市域有数の行楽地となっている。水辺環境を活かした環境学習の場である「緑の拠点」、観光・交流の活性化を担う「海洋レクリエーション拠点」として、豊かな海洋資源を保全し、「瀬長島観光拠点整備計画H25.2)」

に基づき、自然と調和する観光関連施設の整備を促進する。

5-5 街並み・景観に関する方針

歴史・文化的資源の保全・継承・活用ーグスクの保全・活用

- ・豊見城グスク、保栄茂グスク、長嶺グスク、瀬長グスク、平良グスク等やその周辺の丘陵地の緑地では、現在も祭りや神事が行われ、地域住民のアイデンティティの拠り所となる場所性を有しており、また、地域のランドマークになっている。これらグスク及び丘陵地の緑地を、歴史・文化的資源を活かした観光・交流活動を担う「歴史・文化拠点」等として保全に努め、地域のまちづくりへの活用を図る。

(第7章地域別方針)

7-4 西海岸地域に関する方針

海洋環境・レクリエーション地(瀬長島及び与根漁港、豊崎の人工海浜)

- ・瀬長島の自然海岸線や礁池(イノー)、歴史・文化的資源を有する丘陵地の斜面緑地を維持・保全するとともに、自然と調和する観光関連施設の整備を促進する。

緑地(瀬長集落背後の斜面緑地、瀬長島の斜面緑地)

- ・歴史ある瀬長グスクを有する瀬長島の斜面緑地は、観光地としての魅力を高める緑地として、海洋資源と一体的な維持・保全に努める。

地域の重点施策:瀬長島の保全・活用

- ・グスク周辺の緑地と海洋資源の保全、これらと調和した観光地としての環境整備の促進

(7) 行政改革アクションプラン(平成30年3月策定・同年4月修正)

・事務効率化による行政サービスの向上に向けて、瀬長島サンセットパークの指定管理者制度の導入が検討

■将来像

改革を実感できる行政システムの構築

■瀬長島に関係する主な記載事項

(行政改革アクションプラン方策一覧)

Ⅰ 行政サービスの質の向上

(3) 事務効率化による行政サービスの向上-公民連携(PPP)の検討・推進

・瀬長島サンセットパークの指定管理者制度の導入検討(担当部署:公園緑地課)

(8) 公共施設等総合管理計画(平成29年3月策定・令和4年3月改訂)

- ・【野球場】受益者負担の考え方による使用料等の見直し、弾力的な運用による利用率向上
- ・【旧空の駅】長寿命化による修繕コストの平準化

■将来像

改革を実感できる行政システムの構築

■瀬長島に関係する主な記載事項

(第5章 機能別の現状と分析・第9章 施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方)

3-2 レクリエーション施設

■瀬長島コミュニティスポーツ広場 管理棟・便所(豊見城市立瀬長島野球場)

築 年:平成5年度

敷地面積:47,916 m²

延床面積:84 m²

階 数:1

耐震診断:適合

運営時間:7:00~23:00

休 所 日:なし

運 営:指定管理

管理に関する基本的な考え方:

- ・受益者負担の観点で、施設使用料や減免等の見直しを図っていきます。
- ・詳細な利用実態を調査・分析し、多面的な利用や利用時間の弾力的な運用による利用率の向上を検討します。

■旧空の駅瀬長島物産センター

築 年:平成17年度

敷地面積:1,691.5 m²

延床面積:180 m²

階 数:1

耐震診断:適合

運営時間:11:00~19:00

休 所 日:なし

運 営:賃貸借

管理に関する基本的な考え方:

- ・長寿命化を図るべく事前保全に努め、修繕コストの平準化を図ります。

1-3 利用者アンケート

1 意向調査の概要

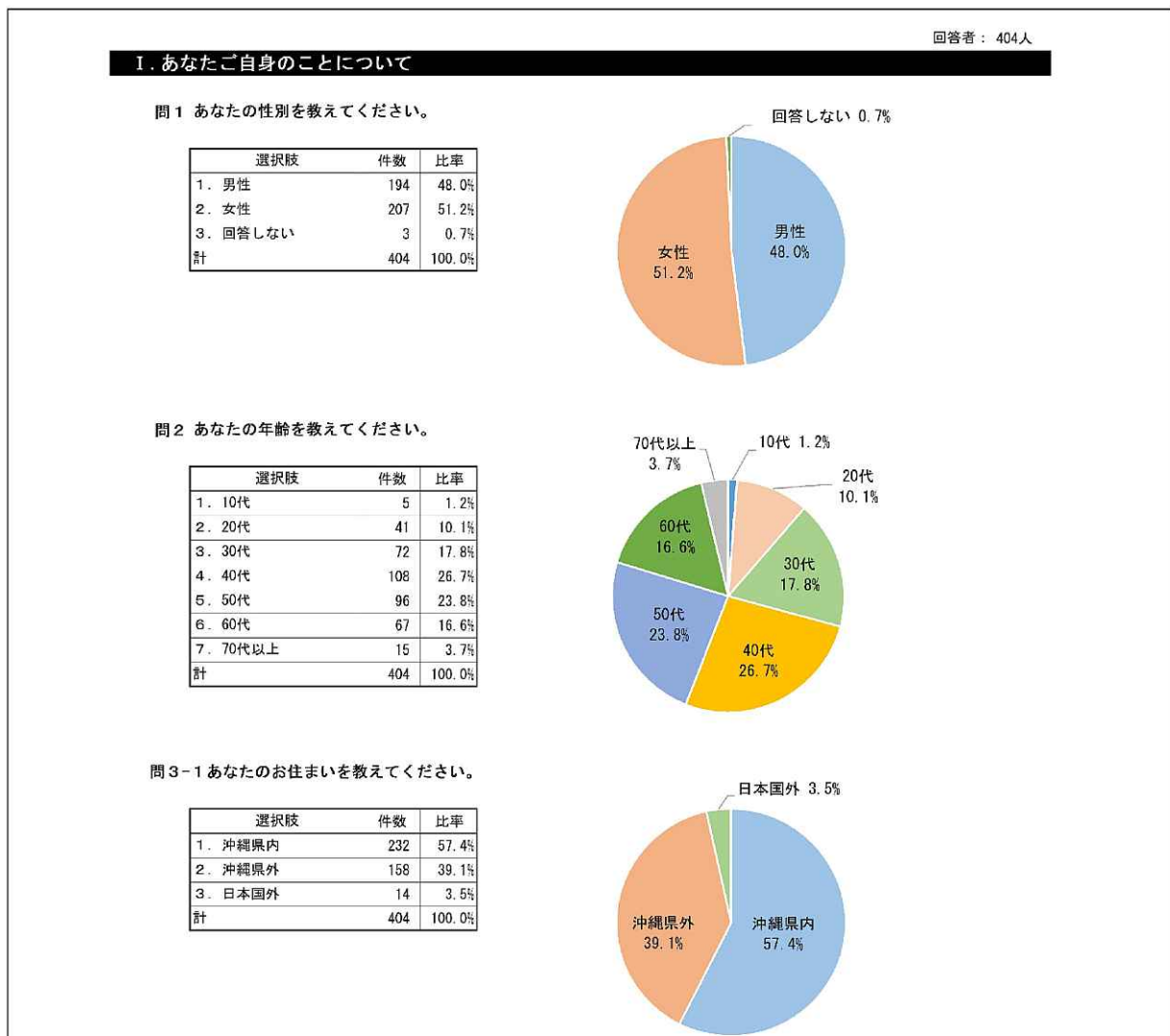
瀬長島の利用者の満足度や要望を把握するため、アンケート調査を実施しました。アンケート調査の実施概要は以下のとおりです。

表 アンケート調査実施概要

回答方式	WEB アンケート 瀬長島を中心に市内各所にアンケートへのWEBリンク(QRコード)を用意し、瀬長島の来島者等が回答
実施期間	令和6年5月2日～令和6年9月30日
回答者数	404件

2 利用者の意向(調査結果)

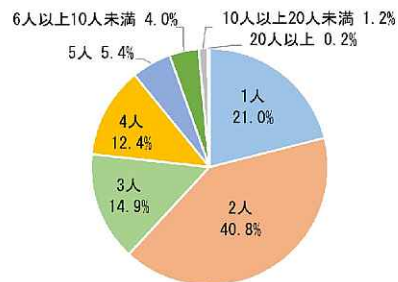
アンケート調査の結果の概要を以下に示します(概要であり、一部の設問や自由記述の回答などは省略しています)。



Ⅱ. 瀬長島について

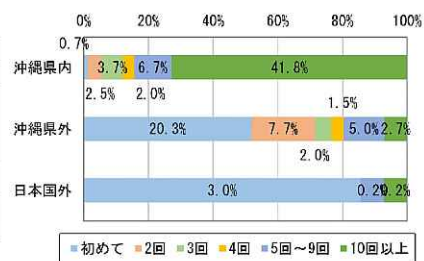
問4 瀬長島への来訪者人数を教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 1人	85	21.0%
2. 2人	165	40.8%
3. 3人	60	14.9%
4. 4人	50	12.4%
5. 5人	22	5.4%
6. 6人以上10人未満	16	4.0%
7. 10人以上20人未満	5	1.2%
8. 20人以上	1	0.2%
計	404	100.0%



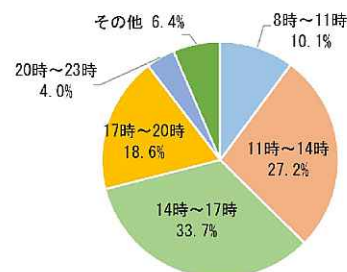
問5 瀬長島への来訪回数を教えてください。

選択肢	県外	県内	国外	件数	比率
1. 初めて	82	3	12	97	24.0%
2. 2回	31	10	0	41	10.1%
3. 3回	8	15	0	23	5.7%
4. 4回	6	8	0	14	3.5%
5. 5回～9回	20	27	1	48	11.9%
6. 10回以上	11	169	1	181	44.8%
計	158	232	14	404	100.0%



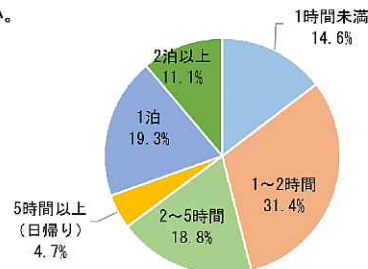
問6 瀬長島へ来訪した時間帯を教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 8時～11時	41	10.1%
2. 11時～14時	110	27.2%
3. 14時～17時	136	33.7%
4. 17時～20時	75	18.6%
5. 20時～23時	16	4.0%
6. その他	26	6.4%
計	404	100.0%



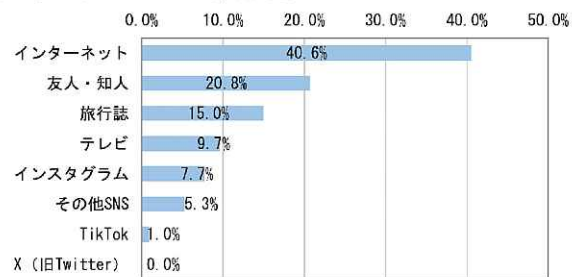
問7 瀬長島の滞在時間（予定含む）を教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 1時間未満	59	14.6%
2. 1～2時間	127	31.4%
3. 2～5時間	76	18.8%
4. 5時間以上（日帰り）	19	4.7%
5. 1泊	78	19.3%
6. 2泊以上	45	11.1%
計	404	100.0%



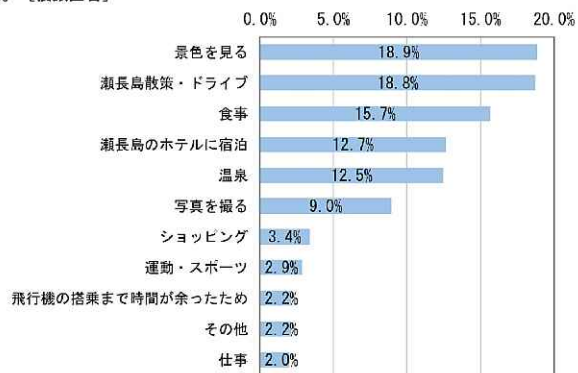
問8 瀬長島を知ったきっかけを教えてください。（県外・国外の方のみ）【複数回答】

選択肢	件数	比率
1. テレビ	20	9.7%
2. 旅行誌	31	15.0%
3. インターネット	84	40.6%
4. インスタグラム	16	7.7%
5. TikTok	2	1.0%
6. X（旧Twitter）	0	0.0%
7. その他SNS	11	5.3%
8. 友人・知人	43	20.8%
計	207	100.0%



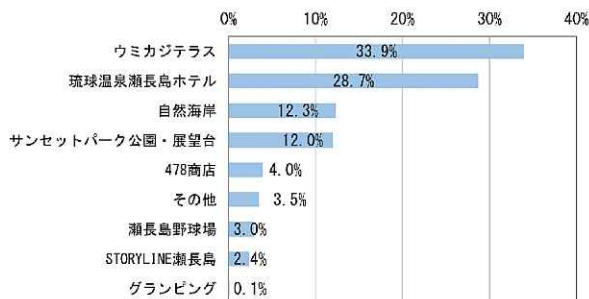
問9 瀬長島を訪れた主な目的を教えてください。【複数回答】

選択肢	件数	比率
1. 瀬長島散策・ドライブ	182	18.8%
2. 景色を見る	183	18.9%
3. 写真を撮る	87	9.0%
4. 食事	152	15.7%
5. 仕事	19	2.0%
6. 瀬長島のホテルに宿泊	123	12.7%
7. ショッピング	33	3.4%
8. 温泉	121	12.5%
9. 運動・スポーツ	28	2.9%
10. 飛行機の搭乗まで時間が余ったため	21	2.2%
11. その他	21	2.2%
計	970	100.0%



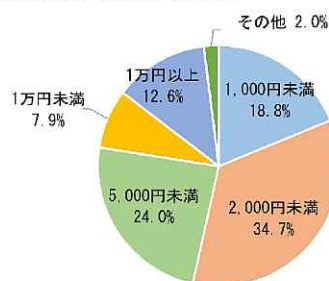
問10-1瀬長島での予定を含む「訪問先」を教えてください。〔複数回答〕

選択肢	件数	比率
1. 琉球温泉瀬長島ホテル	203	28.7%
2. STORYLINE瀬長島	17	2.4%
3. ウミカジテラス	240	33.9%
4. グランピング	1	0.1%
5. 478商店	28	4.0%
6. サンセットパーク公園・展望台	85	12.0%
7. 瀬長島野球場	21	3.0%
8. 自然海岸	87	12.3%
9. その他	25	3.5%
計	707	100.0%

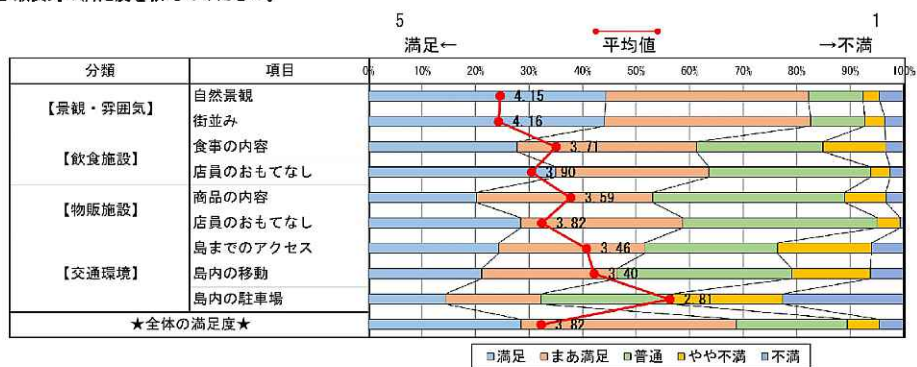


問11 瀬長島での一人あたりの予算（宿泊費を除く飲食費などの）を教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 1,000円未満	76	18.8%
2. 2,000円未満	140	34.7%
3. 5,000円未満	97	24.0%
4. 1万円未満	32	7.9%
5. 1万円以上	51	12.6%
6. その他	8	2.0%
計	404	100.0%



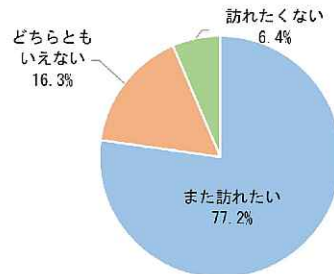
問12 瀬長島の満足度を教えてください。



※平均値（不満・・・1、やや不満・・・2、ふつう・・・3、まあ満足・・・4、満足・・・5）無回答・分らないは除く。
※折れ線は平均値。

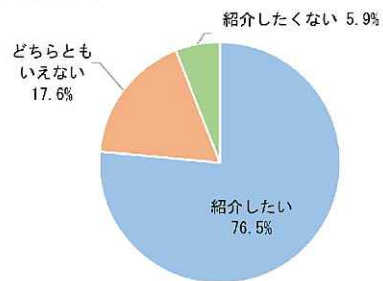
問15 瀬長島へ「また訪れたい」と感じましたか？教えてください。

選択肢	件数	比率
1. また訪れたい	312	77.2%
2. どちらともいえない	66	16.3%
3. 訪れたくない	26	6.4%
計	404	100.0%



問16 瀬長島を知人などに紹介したいですか？教えてください。

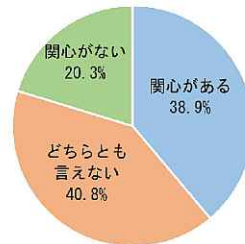
選択肢	件数	比率
1. 紹介したい	309	76.5%
2. どちらともいえない	71	17.6%
3. 紹介したくない	24	5.9%
計	404	100.0%



Ⅲ. ブルーカーボンなどのSDGsの取組や自然環境について

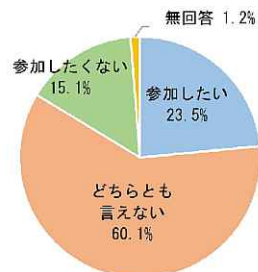
問17 ブルーカーボンへの取組に関心がありますか？教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 関心がある	157	38.9%
2. どちらとも言えない	165	40.8%
3. 関心がない	82	20.3%
計	404	100.0%



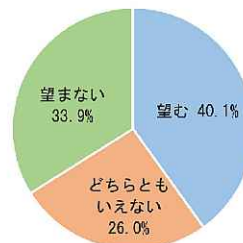
問18-1 ブルーカーボンの取組に参加したいですか？教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 参加したい	95	23.5%
2. どちらとも言えない	243	60.1%
3. 参加したくない	61	15.1%
無回答	5	1.2%
計	404	100.0%



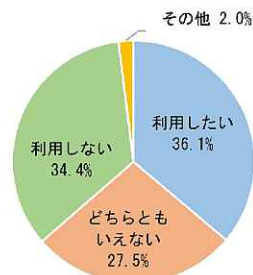
問19 瀬長島で人工ビーチなど遊泳できる場所の設置を望みますか？教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 望む	162	40.1%
2. どちらともいえない	105	26.0%
3. 望まない	137	33.9%
計	404	100.0%



問20 瀬長島及びその周辺でマリンレジャー（ダイビング・シュノーケル・SAPなど）があれば利用しますか？教えてください。

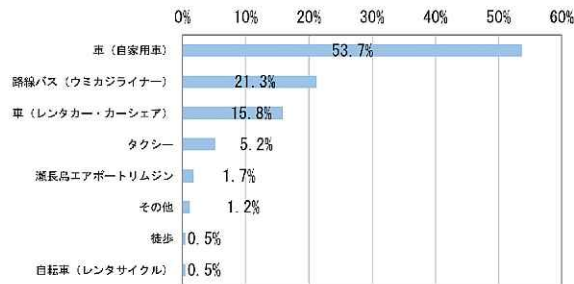
選択肢	件数	比率
1. 利用したい	146	36.1%
2. どちらともいえない	111	27.5%
3. 利用しない	139	34.4%
4. その他	8	2.0%
計	404	100.0%



IV. 交通課題への対策について

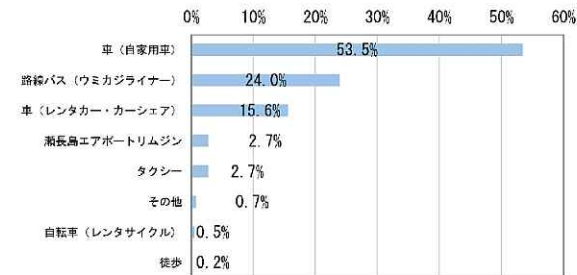
問21 来島した際の交通手段を教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 路線バス（ウミカジライナー）	86	21.3%
2. 瀬長島エアポートリムジン	7	1.7%
3. 車（自家用車）	217	53.7%
4. 車（レンタカー・カーシェア）	64	15.8%
5. タクシー	21	5.2%
6. 徒歩	2	0.5%
7. 自転車（レンタサイクル）	2	0.5%
8. その他	5	1.2%
計	404	100.0%



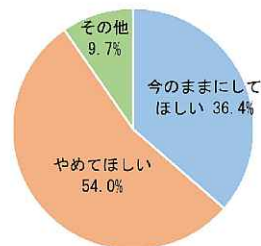
問22 島を出る際の交通手段を教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 路線バス（ウミカジライナー）	97	24.0%
2. 瀬長島エアポートリムジン	11	2.7%
3. 車（自家用車）	216	53.5%
4. 車（レンタカー・カーシェア）	63	15.6%
5. タクシー	11	2.7%
6. 徒歩	1	0.2%
7. 自転車（レンタサイクル）	2	0.5%
8. その他	3	0.7%
計	404	100.0%



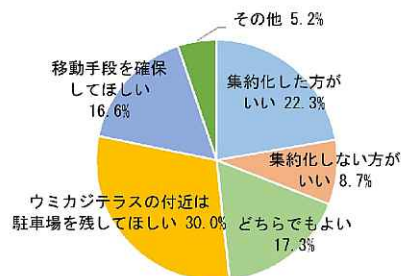
問23 島の路側帯における路上駐車（ウミカジテラス先など）に対する感じたことを教えてください。

選択肢	件数	比率
1. 便利なので今のままにしてほしい。	147	36.4%
2. 路上駐車はやめてほしい。	218	54.0%
3. その他	39	9.7%
計	404	100.0%



問24 駐車場を集約化について、意見をお聞かせください。

選択肢	件数	比率
1. 集約化した方がいい	90	22.3%
2. 集約化しない方がいい	35	8.7%
3. どちらでもよい	70	17.3%
4. ウミカジテラスの付近は、駐車場を残してほしい	121	30.0%
5. 集約化する場合は、道路幅が広い場所が良いと思う	67	16.6%
6. その他	21	5.2%
計	404	100.0%



1-4 瀬長島の現状のまとめ

これまでに整理した瀬長島の現状について、「土地利用」、「交通」及び「街並み」の3つの観点からとりまとめを行います。

1 土地利用

- ・一部を除き市が土地を所有
- ・全域が市街化調整区域（開発が大幅に規制）
- ・全域で高さ制限がある

駐車場は島内の約11%を占め、各エリアに散在
利用転換ができれば新たなにぎわい創出の場となる可能性を有する

道路は島内の約15%を占める
利用転換ができれば新たなにぎわい創出の場となる可能性を有する

黒字：現状
赤字：課題点
青字：活かすべきこと

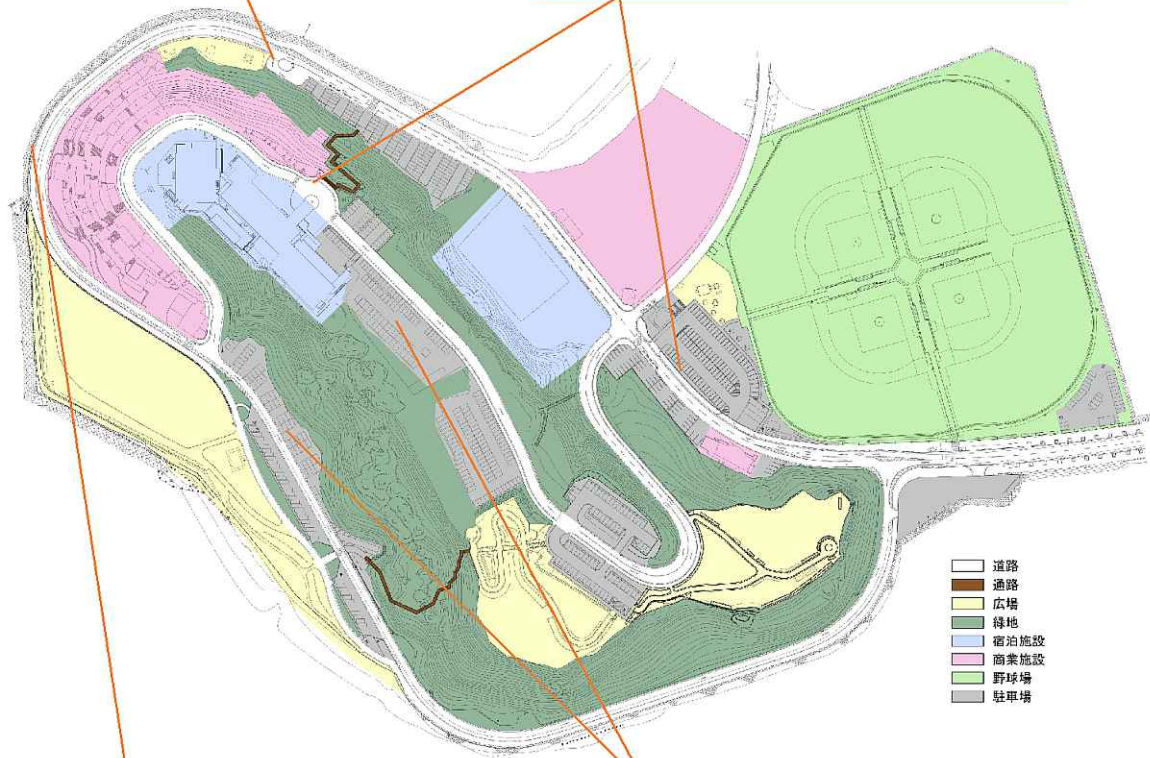


2 交通

黒字：現状
赤字：課題点
青字：活かすべきこと

途中から一方通行
車両の走行路がやや分かりにくい

バス停（28 便/日）、島内に2ヶ所のみ
公共交通での一定のアクセス性を確保
島内の回遊性が不十分
定時性や供給量等に課題



歩行者と自動車が混在・路上駐車可
自動車利用者の利便性が確保
十分な安全性・快適性を確保できていない

駐車場は島内に約 593 台、各エリアに点在
駐車場が不足（ホテル・商業施設拡張によるさらなる不足も懸念）

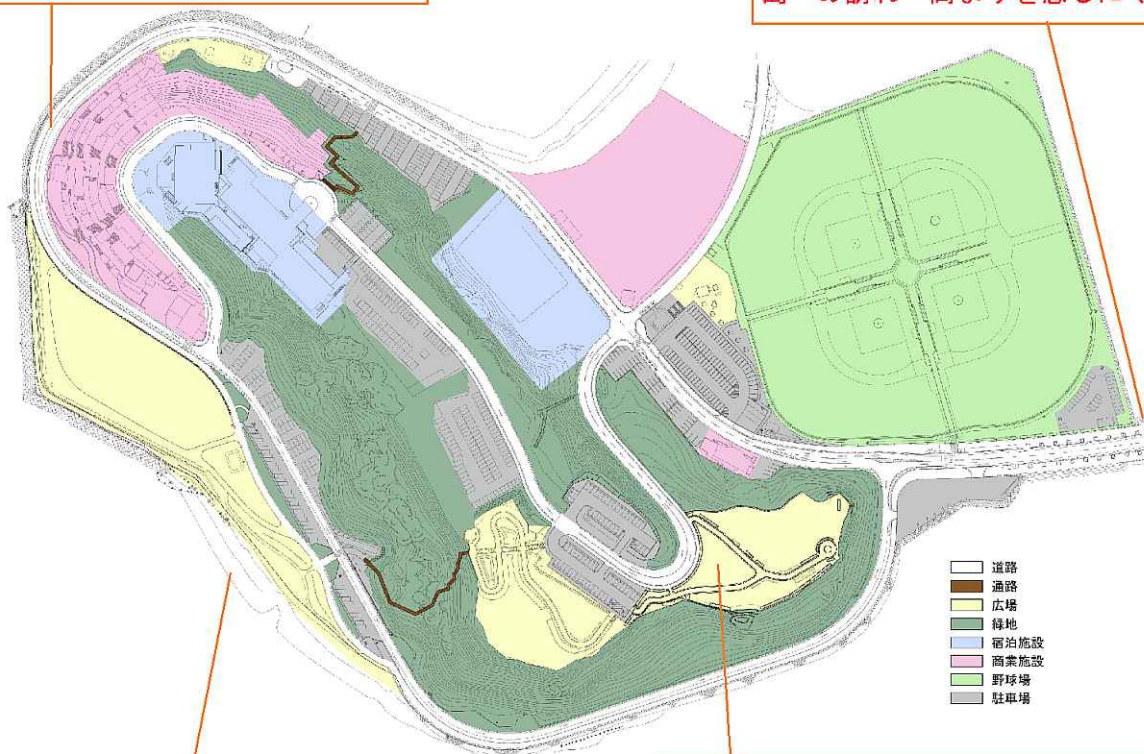
3 街並み

黒字：現状
赤字：課題点
青字：活かすべきこと

一般的なアスファルト舗装
沿道商業施設と調和していない

路上駐車が可能
海岸と沿道商業施設の調和を阻害

島へつながる一本道
一般的なアスファルト舗装
島への訪れを感じられる構造
島への訪れ・高まりを感じにくい



サンゴ礁・砂浜による美しい海景

豊見城発祥の地「神の島」
豊かな自然環境を残す
文化・自然環境も資源として有する